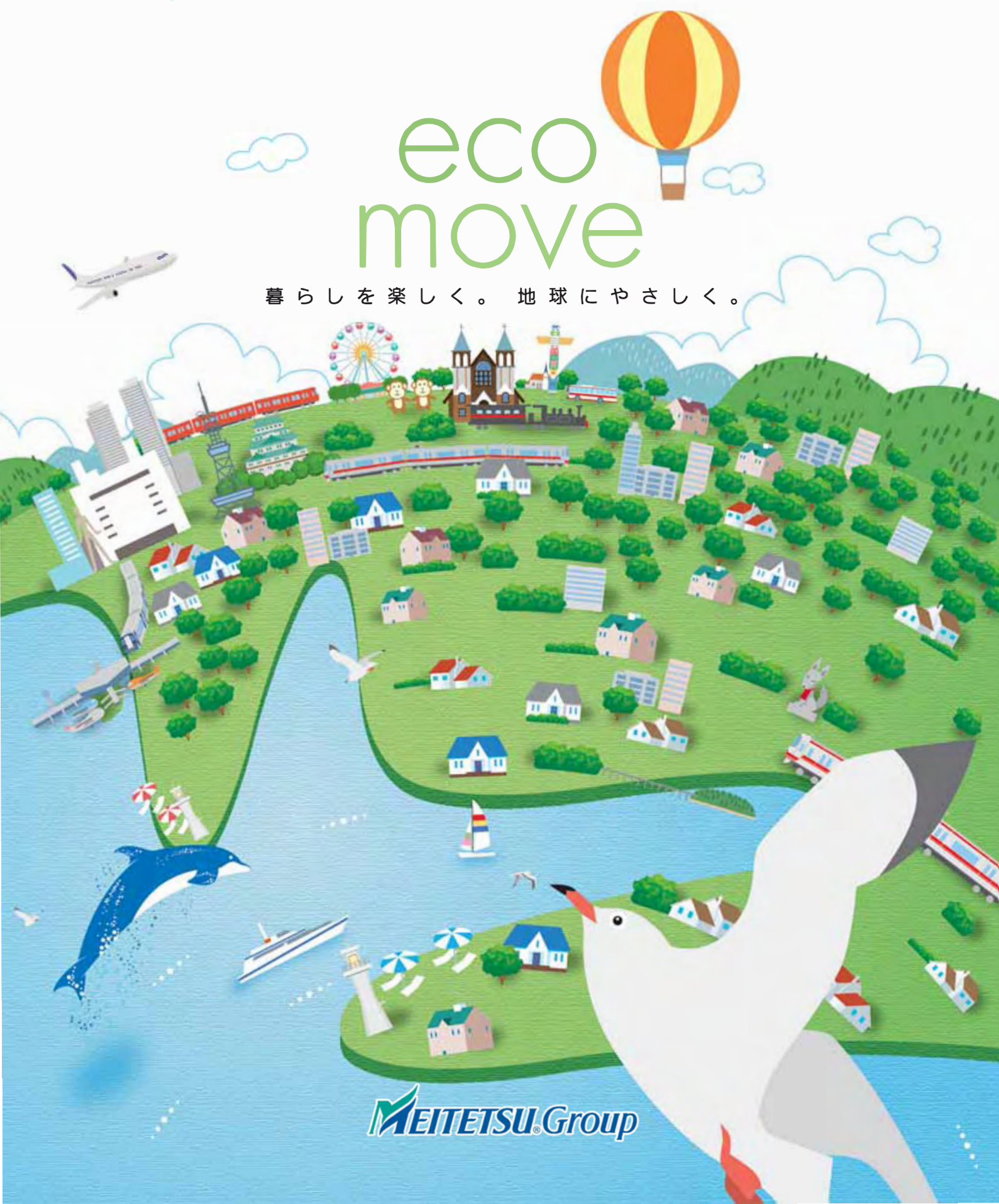


名鉄グループ 環境・社会報告書

2013

eco
move

暮らしを楽しく。地球にやさしく。



MEITETSU Group

「ごあいさつ」

私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします。

名鉄グループは、「名鉄グループ経営ビジョン」において、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命とし、「地域から愛される信頼のトップブランド」をめざすことを経営理念としております。この経営理念に基づき、交通事業を基盤とするグループとして「安全・安心の徹底」はもちろん、「社会的責任の完遂」を重要な経営方針の一つとして掲げております。

環境活動においては、平成18年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定し、グループを挙げて環境保全への取り組みを積極的に推進しております。

電車のCO₂排出量はマイカーに比べると格段に低いことから、鉄道やバスなどの公共交通を利用することそのものが「身近で簡単な環境活動」であることを広く地域の皆さまに理解していただくため、当社では、「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しております。

平成20年6月からは、毎年「名鉄エコプロジェクト」を実施しており、お客さまに環境問題について関心を持っていただけるようPRに努めるとともに、身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけております。

また、お客さまの利便性の向上を図るために、沿線でのパーク&ライド駐車場の整備、駅のバリアフリー化などに加え、繰り返し利用が可能なICカード乗車券「manaca」を導入しました。

この「manaca」乗車券は、本年3月に全国の主要な

交通系ICカードとの相互利用が可能となり、一層利便性が高いものとなりました。

当社は、平成26年6月に、創業120周年を迎えます。これも、ひとえに地域の皆さまのご支援の賜物と感謝いたしております。企業として、環境問題への対応をはじめ、社会貢献に大きな関心が持たれるこの時代において、私ども名鉄グループは、これからも、地域に愛される企業として存続していくため、より一層地域との連携を深め、地球環境や社会に貢献し、当地域の更なる発展に寄与できるように、引き続き真摯に取り組んでまいります。



名古屋鉄道株式会社 取締役社長

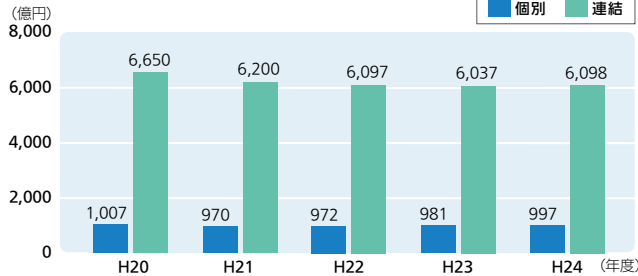
山本 亜土

■ 路線図

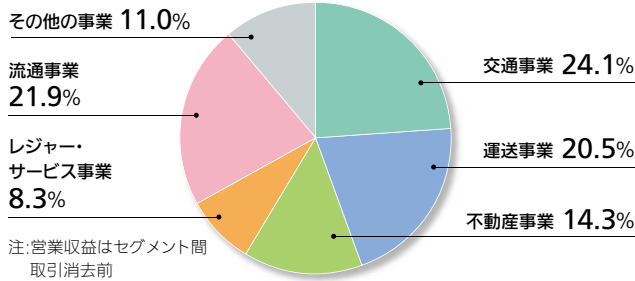


名鉄グループの概要 (平成25年3月31日現在)

- 関係会社数 連結子会社 130社
持分法適用会社 16社
- 営業収益 6,098億36百万円 (平成25年3月期)
- 従業員数 30,734人
- 営業収益の推移



■ 営業収益比率 (平成25年3月期)



名鉄グループ経営ビジョン

使 命	地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する	
経営理念	私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします	
経営方針	経営の原点	お客さま満足度を高める全社体制の確立
	グループ経営の方向	競争に打ち勝つ経営力強化と新しい事業への挑戦
	目指す社風	一人ひとりの資質向上とチャレンジできる風土づくり
	存続の条件	社会的責任の完遂
行動規範	<ul style="list-style-type: none"> ■ 真心のこもったサービスを提供し、信頼を勝ち取ります ■ 新しい流れをつかみ、常にチャレンジします ■ 一人ひとりが役割と責任を果たし、前進します 	

名古屋鉄道株式会社の概要

社 名	名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co.,Ltd.
創 業	明治27年(1894年)6月25日
設 立	大正10年(1921年)6月13日
代 表 者	取締役社長 山本 亜土
資 本 金	841億85百万円 <small>(平成25年3月31日現在)</small>
営業収益	997億90百万円 <small>(平成25年3月期)</small>
従業員数	4,988人
事業内容	鉄軌道事業、開発事業
駅 数	275駅
営業キロ	444.2km
輸送人員	年間349,165千人 <small>(平成24年度実績)</small>

目次

ごあいさつ
名鉄グループの概要 1

環境活動報告 2

名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制 2
 名鉄グループ エコ・ビジョン 2
 推進体制 2
 アクション・エコ中期計画 3
 環境マネジメントシステムの導入 3
 名古屋鉄道の取り組み 4
 名鉄エコ・プラン 4
 行動指針①環境負荷の軽減 5
 行動指針②利便性の向上 9
 行動指針③地域環境貢献 10
 行動指針④環境法令の遵守 11
 名鉄エコプロジェクト2013 12
 環境負荷データ 14
 環境会計 15
 名鉄グループの取り組み 16
 交通・運送 16
 不動産・技術 17
 流通/レジャー・サービス 18
 電車で、ECO MOVE。 20

社会的活動報告 21

【特集】文化財保護 21
 安全への取り組み 22
 安全に関する基本方針と安全重点施策 .. 22
 安全管理体制 22
 安全性向上対策 23
 コーポレート・ガバナンス 26
 コーポレート・ガバナンス 26
 コンプライアンス体制 27
 リスク管理体制とリスク管理の取り組み .. 29
 お客さまとのかかわり 30
 地域社会とのかかわり 32
 【特集】地域と連携した街づくり活動 35
 株主・投資家の皆さまとのかかわり 36
 従業員とのかかわり 36
 コミュニケーションスローガン 37



環境活動報告



よりよい環境を次代へ引き継いでいくため
グループ一体となって地球環境保全に貢献していきます。

名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制



グループ環境方針のもと、推進体制を確立し、環境活動の深度化を図っています。

名鉄グループ エコ・ビジョン

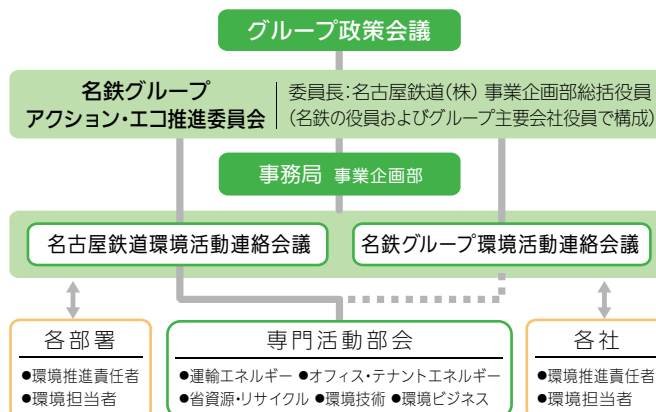
名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、平成18年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定しました。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念	名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします
基本方針	<p>1 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます 地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。</p> <p>2 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます グループが展開する幅広い事業を活かし、各社は保有・開発する環境保全事業やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。</p> <p>3 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます 地域を中心とした関係各方面と協力し、地球環境保全の向上を図ります。また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。</p> <p>4 環境法令の正しい理解と遵守につとめます 名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。</p>
行動目標	上記の基本理念・基本方針を受け、名鉄グループ各社毎に、環境活動における行動目標を設定します。

推進体制

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、平成18年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を設置しました。この委員会では、グループ政策会議で決定される基本方針を受け具体的な施策の立案と推進を行います。施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。



アクション・エコ中期計画

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会では、グループが一体となった環境活動を推進するため、平成24年度から3ヵ年を計画期間とする「アクション・エコ中期計画(2012～2014年度)」を策定しました。本計画では、「名鉄グループエコ・ビジョン」の基本方針に基づき、4つの重点テーマを設定し、更にそれぞれのテーマごとにブレイクダウンした取り組み事項を定めています。

■アクション・エコ中期計画(2012年度～2014年度)

重点テーマ	取り組み項目
1 環境意識の向上	■環境教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ●社内研修会の開催 ●環境社会検定試験(エコ検定)取得の推奨
2 環境負荷の軽減	■エネルギー使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ●省エネ車両の導入・切り替え ●省エネ設備・機器の導入、切り替え ●エコ運転への取り組み推進 ■オフィスにおけるエコ活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●エコオフィス運動の推進 ●紙使用量の削減 ●事務用品のグリーン購入推進 ■新しい環境技術の研究・導入 <ul style="list-style-type: none"> ●自然再生エネルギーシステムの導入検討 ●騒音・振動の低減 ●低炭素社会の実現に向けた実証プロジェクト等への参画 ■資源消費の節約 <ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の削減及びリサイクル率の向上 ●水使用量の削減 ■生物多様性保全への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性セミナーの開催 ●地域の生態系保護活動等への参画 ■環境マネジメントシステム構築の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●ISO14001、グリーン経営認証等の取得推進 ●PDCAサイクルの確実な実施と活用
3 環境コミュニケーションの推進	■積極的な情報開示 <ul style="list-style-type: none"> ●グループ環境・社会報告書の発行・コンテンツ充実 ●WEBでの積極的な情報開示 ■環境活動PRの推進 <ul style="list-style-type: none"> ●環境ポスター・車内吊広告による環境活動のPR ●環境イベントの開催 ●子供向け環境教育の強化 ■地域と一体となった環境活動への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●地域との協働による清掃活動 ●鉄道沿線や事業所等における植栽活動
4 環境関係法令の遵守	■事業に関連する環境関係法令への対応 <ul style="list-style-type: none"> ●有害物質の厳正な管理 ●社内研修会・セミナーの開催

環境マネジメントシステムの導入

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

■ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	JQA
矢作建設工業	平成12年8月	(財)建材試験センター
メイエレック	平成13年6月	JQA
電通名鉄コミュニケーションズ	平成13年9月	LRQAジャパン
山梨名鉄運送	平成14年4月	JACO
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	JQA
名鉄百貨店	平成14年8月	JQA
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	ビューローベリタスジャパン(株)
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK
奥飛観光開発	平成17年3月	(財)日本ガス機器検査協会

JQA:(財)日本品質保証機構 JACO:(株)日本環境認証機構 KHK:高圧ガス保安協会 LRQAジャパン:ロイドレジスタークオリティアシュアランスリミテッド

■グリーン経営認証取得会社

バス	名鉄観光バス / 宮城交通 / 濃飛乗合自動車
タクシー	名鉄交通 / 愛電交通 / 名鉄西部交通 / 石川交通 名鉄知多タクシー / 名鉄東部交通 / 名鉄岡崎タクシー 名鉄名古屋タクシー / 豊鉄タクシー
トラック	信州名鉄運輸 / 四国名鉄運輸 / 名鉄ゴールデン航空 東北名鉄運輸 / 柳島運送 / 名鉄急配 / 新潟名鉄 トーハイ / 中国名鉄運送 / 北陸名鉄運輸 和歌山名鉄運輸 / 九州名鉄運輸

■名古屋市エコ事業所認定会社

名古屋鉄道 / 名鉄百貨店 / 名鉄協商 / 名鉄産業 / 名鉄交通商事
矢作建設工業 / メイエレック / 名鉄環境造園 / 名鉄観光バス
名鉄急配

■自動車エコ事業所認定会社

名鉄バス / 名鉄協商

■エコアクション21認証取得会社

名鉄交通商事

(平成25年6月現在)

TOPICS

自動車エコ事業所の認定取得

名鉄協商では、平成21年12月に本社および駐車場センターが愛知県から「自動車エコ事業所」として認定されました。これは、8割を超えるエコカー導入率と充電設備の対外的開放が、自動車環境対策への取り組みとして評価されたものです。

名古屋鉄道の取り組み



名古屋鉄道は、名古屋を中心として愛知・岐阜両県下に444.2kmの鉄道路線網を持ち、お客さまの足として公共交通サービスを提供しています。地球環境問題への意識が高まる中、エネルギー効率のよい鉄道は、マイカーに比べCO₂排出量が約9分の1であり、「環境にやさしい乗り物」として、その果たす役割が見直されてきています。当社は、省エネルギー車両への更新やパーク&ライド駐車場の整備、使用済み乗車券のリサイクルなどに継続的に取り組み、地球温暖化防止に努めています。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、さまざまな交通事業者との連携や地域特性を生かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していきたいと考えています。

名鉄エコ・プラン

平成19年4月に環境活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を制定しました。各部署は、「名鉄エコ・プラン」の行動指針と行動目標に基づき、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるための各種取り組みを行っています。

名鉄エコ・プラン

行動指針

1 環境負荷の軽減

省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。

- 運転電力削減目標を達成します。
- 使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。

2 利便性の向上

効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。

3 地域環境貢献

地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。

4 環境法令の遵守

環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

「環境に関する行動目標」を毎年度策定し、実施する。

■2013年度 名古屋鉄道 環境に関する行動目標

テーマ	取り組み内容	
1 環境意識の向上	環境教育の実施	社内研修の実施、家庭内エコ活動の推奨 環境社会検定試験(エコ検定)取得の推奨
	2 環境負荷の軽減	鉄道運転電力の削減 運転電力原単位 平成21年度比4%削減 列車騒音・振動の低減 ロングレール化の推進 グリーン購入率の向上 グリーン購入率80%以上の維持 エコオフィス運動の推進 「エコ・マニフェスト」の策定及び結果評価の実施
3 環境コミュニケーションの推進	地域への環境貢献	地域との協働による清掃活動の実施
	環境活動のPR	「名鉄エコプロジェクト2013」の実施、 お子さま向け環境教育の推進
	積極的な情報開示	環境WEBサイト・「環境・社会報告書」の充実
4 環境法令の遵守	廃棄物の厳正な管理	廃棄物管理体制の強化

エコ・プラン行動指針 1

環境負荷の軽減

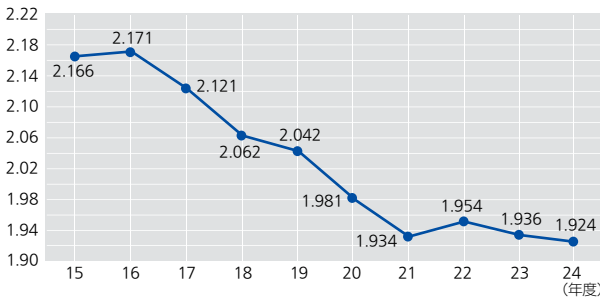
電車の運転電力原単位の向上

電車の運行では、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、線区ごとの省エネ活動組織（運輸エネルギー部会）での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位*の向上に努めています。

平成24年度は、新型車両の導入や省エネ機器（VVVFインバータ制御）への車両改造を実施したほか、運転士は節電を意識した運転操作を行うとともに、車掌は気候に応じた、こまめな車内空調の取扱いに心がけました。また、震災以降の節電対策として車内灯の間引き・空調設定の変更なども継続して行い、運転原単位は前年比で0.6%ほど減少しました。今年度も引き続き、以下のような目標を設定し、原単位の向上に努めていきます。 ※車両1両が1km走行するのに要する電力量

平成26年度の電車の運転電力原単位を、
全線で平成21年度比▲5%をめざします。

● 1車両1キロあたりの電力使用量の推移 (kWh/Car-km)



車両の省エネルギー化

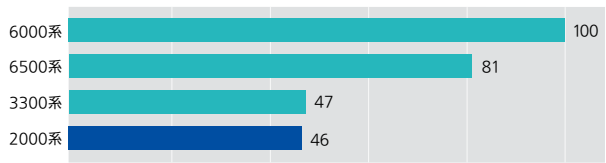
省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を使えるようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を搭載した省エネルギー車両への更新により、消費電力の削減を図っています。

平成24年度はVVVFインバータ制御を搭載した車両に24両を新造、また既存車両8両を従来の抵抗制御方式からVVVFインバータ制御に更新しました。今後も快適性の向上とともに、省エネルギー車両の導入を推進していきます。

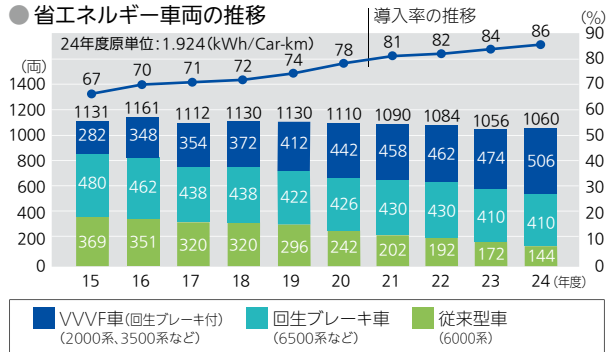
平成24年度末現在

車両数 ----- 1,060両
省エネルギー車両数 ----- 916両
省エネルギー車両導入率 ----- 86%

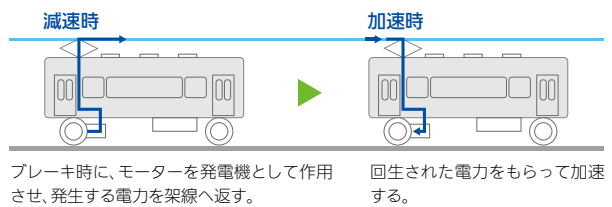
● 名鉄の車両別消費電力の比較 (指数(6000系=100))



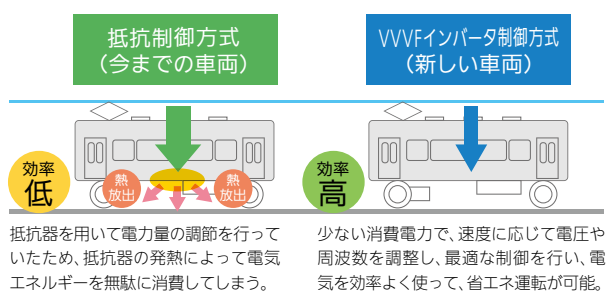
● 省エネルギー車両の推移



● 電力回生ブレーキシステムの仕組み



● VVVFインバータ制御の仕組み



● T O P I C S ●

車輪フラット検出装置

メイエレックでは、車輪踏面に発生したフラット・剥離・熱亀裂を早期発見する装置を、名古屋鉄道と共同開発で平成11年に導入し、騒音・振動低減と業務効率化に大きく寄与しており、他の鉄道会社にも導入されています。(特許登録済)

お問合せ 株式会社メイエレック
技術開発部 技術課 052-678-1895



センサー設置状況

電気施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電気施設の省エネルギー化を推進しています。

■力率改善コンデンサーの設置

大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線35カ所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。平成5年から順次進めており、現在11の変電所で使用しています。

■き電線の強化

架線に流れている電車運転電力の送電ロスを低減させるため、き電線を太くするなどの強化を進めています。当社ではほとんどの線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続して電力を供給する方式で、走行中の電車まで効率良く電気を流すことができます。また、回生電力を上り下りの電車に限定されることなく、有効に使えるメリットもあります。



電気保守作業

■騒音の低減化

変電所の新設や大規模改良工事の機会に合わせて、防音壁等の設置や屋内型機器の採用により、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の低減を図り、周囲の環境に配慮しています。



屋内型機器を採用した各務原変電所

■信号機および踏切灯器のLED化

信号機および踏切灯器で使用する電球のLED化を順次進めており、平成25年3月時点では全信号機の37%に導入しています。LEDは電球に比べ消費電力が少なく、長寿命であるだけでなく、視認性にも優れているため、今後も新設または更新の際にはLED化を積極的に進めていきます。



LED化した信号機

沿線環境保全

■ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを軽減するため、継目を溶接し、1,000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めています。



土木保守作業

→ **ロングレール化累積施工実績(平成24年度末時点)**
264.4km (敷設可能区間のうちの71.5%)

■レールの重量化

レールを重いものにすることで列車の走行性が安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が重レール(50kg/m以上のレール)になっています。

■レール削正車の導入

線路の保守管理の新しい手法として、車体の下に装着された16個の砥石を高速回転させ、レールの細かな傷や凹みを削り取るレール削正車を導入しました。これにより、レール寿命の延伸、騒音・振動の軽減や乗り心地の向上を図っています。平成24年度は、名古屋本線、常滑線等において、軌道延長49.8kmのレール削正を実施しました。



16頭式レール削正車

● T O P I C S ●

電気高効率水冷チラーへの更新

平成22年1月に国土交通省「既設住宅・建築物省エネ改修緊急促進事業」の補助金を得て、神宮前駅西口ビルのガス焚き・油焚きの冷温水発生機を電気高効率水冷チラーへ更新しています。また冷温水ポンプのインバータ化や、誘導灯の一部を高効率照明へ切り替えることで、全CO₂発生量の27.2%を削減することができました。今後も順次省エネ機器を導入し、地球温暖化防止に貢献していきます。



リサイクルの取り組み

名古屋鉄道では早くから、使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んできました。平成8年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、平成18年度には初めてすべての使用済み乗車券(定期券およびカード類含む)をリサイクルすることに成功しました。

紙製乗車券の大部分は、マテリアルリサイクルを行っています。名刺などの事務用品をはじめ、駅のベンチや分別ボックス、トイレトーパーへの再生も積極的に行うとともに、リサイクルシステムを他の鉄道事業者などへも広げています。(平成24年度末時点約18社局)

平成24年度は、使用済み乗車券が22t発生、すべてをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作したリサイクルベンチの背、座板を各48枚設置しました。



乗車券リサイクルトイレトーパー



乗車券リサイクルベンチ

→ 平成24年度乗車券リサイクル率 100%

オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入に至るまで、さまざまです。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、継続的に取り組んでいます。

■各部署共通『エコ・マニフェスト』の策定

従業員一人ひとりの環境意識の一層の高揚により、エコな職場の実現を目指していくため、各部署共通の『エコ・マニフェスト』を定めています。『エコ・マニフェスト』はポスターにして各部署で掲示しています。

平成25年度 各部署共通エコ・マニフェスト

1. 長時間離席時の照明消灯・
パソコンディスプレイ閉じの徹底
2. オフィス内の適度な温度設定
3. 紙・水使用量の削減
4. 環境対応商品(グリーン商品)の採用
5. 家庭におけるエコ活動の実施

■多分別ボックスの設置

オフィスで発生する多種多様の廃棄物を、資源として可能な限り有効に活用するため、多分別ボックスの設置を行っています。本社事務所では、10種類に分別し、廃棄物のリサイクル率向上を図っています。



多分別ボックス

■グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。当社では、平成15年に購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を策定しています。

→ 平成24年度グリーン購入率 80% (金額ベース)

名古屋鉄道グリーン購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

1. 環境汚染物質の有無の確認
2. 省エネルギー製品の優先的購入
3. 長寿命製品の優先的購入
4. リユース・リサイクルの推進
5. リサイクル製品の優先的購入
6. 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入
7. 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入

■クールビズ・ウォームビズの実践

名古屋鉄道では平成17年から、環境省が地球温暖化防止行動として提唱している「クールビズ」「ウォームビズ」を毎年実践しています。夏季は6月から9月の4か月間(本年も節電対策に伴い、5月上旬から10月の6か月間を予定)、本社を中心とした部署で、空調温度を高めに設定し、軽装による勤務を実施しています。冬季は12月から翌年3月までの4か月間、「ウォームビズ」に取り組んでいます。

その他の取り組み

■自然エネルギーの利用

駅や駅ビルの設備において、太陽光や雨水など、自然エネルギーを利用しています。

尾張瀬戸駅では、平成13年から太陽光発電パネルおよび雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賄っています。また名鉄新一宮ビル(名鉄百貨店一宮店)および名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)でも、雨水を雑用水の一部に活用しています。



平成24年度実績

太陽光発電 1,029kWh 雨水使用量 11,157m³



太陽光発電パネル(尾張瀬戸駅)

■節水トイレの導入

平成22年10月より、環境にやさしい駅の整備の一環として、中部国際空港駅の4台と金山駅の7台のトイレ小便器に、節水型小便器を導入しています。

導入した節水型小便器は従来型と比較して、洗浄水をリサイクルさせることにより水道水の使用量を約90%節減でき、これにより水道水を使用する際に排出されるCO₂も同時に削減されます。また、洗浄水には「洗浄」・「消臭」・「除菌」の効果を持った洗浄液が含まれており、臭気をカットします。

今後も当社は、環境にやさしく快適にご利用していただける駅の整備を進めていきます。

■鉄道センタービルにおける環境配慮への取り組み

平成24年4月に竣工した「鉄道センタービル」では環境への配慮や省エネに対する様々な取り組みがされています。中でも、各階執務室に換気窓を設けることで、階段シャフトから煙突効果を利用した自然換気システムを導入した事により、通常時は外気を取り入れ空調負荷を低減し省エネを図ると共に、室内環境の快適性が向上しました。また、非常時における事業継続にも寄与しています。その他にも、屋上の一部を緑化することで事務棟執務室のアメニティ向上にも配慮しています。



鉄道センタービル

● T O P I C S ●

名古屋クロスコートタワー竣工

名古屋鉄道、中部経済新聞社、東和不動産の3社共同事業による「名古屋クロスコートタワー」が平成24年6月に竣工しました。当ビルは、名古屋駅や隣接する愛知県産業労働センター(ウイंकあいち)、ミッドランドスクエアと地下道で繋がる利便性の高いオフィスビルです。地下1階には多様な飲食店が集まった「チカマチラウンジ」があります。

また地球環境への配慮として、南側の壁面に水平ルーバーを、東・西壁面に縦ルーバーを設置して太陽光が室内に直接入るのを防ぐほか、窓際の照明は、明るさセンサーによる点灯制御を行い省電力化を行っています。また、遮熱高断熱複層ガラスや自然換気ダンパーを採用することで、室内の冷暖房のエネルギーコストの低減を図っています。



名古屋クロスコートタワー

利便性の向上

ICカード乗車券

名古屋鉄道、名鉄バス、豊橋鉄道では、名古屋市交通局(地下鉄・市バス)、名古屋臨海高速鉄道(株)(あおなみ線)、名古屋ガイドウェイバス(株)(ゆとりーとライン)でも利用できるICカード乗車券「manaca」を平成23年2月11日に導入しました。manacaは繰り返し使えるエコなカードであり、事前にチャージ(入金)しておけば、自動改札機やバス運賃箱にタッチするだけで運賃を自動的に差し引くことができ、定期入れなどから取り出す必要もないほか、マイルージポイントの導入や電子マネー機能の付加などにより、お客さまの利便性を高めています。

平成25年3月23日からは、全国の10の交通系ICカード※による全国相互利用サービスがスタートしました。これにより、manacaをはじめとする交通系ICカードのいずれかを1枚をお持ちいただければ、①全てのエリアで、本サービスに対応した鉄道及びバスをご利用いただけ、②各交通系電子マネー加盟店(「PiTaPa」を除く)では、電子マネーによるショッピングがご利用いただけるようになりました。



ICカード乗車券「manaca」

※ 相互利用サービスを実施している交通系ICカード
Kitaca、PASMO、Suica、manaca、TOICA、PiTaPa、ICOCA、はやかけん、nimoca、SUGOCA

沿線地域におけるmanaca導入

名古屋鉄道では沿線の自治体や商工会等と協力し、manacaの決済端末の導入を推進し、沿線の住民の皆様の利便性の向上に努めています。

平成25年8月からは尾張旭市商工会と協力し、尾張旭市商工会加盟店合計35店舗でmanacaの決済端末を導入したほか、平成25年9月からは瀬戸まちづくり(株)と協力し、瀬戸市内の3つの商店街の15店舗でmanacaの決済端末を導入しました。

今後も上記の取り組みを強化していくとともに、他の当社沿線自治体にも普及を図っていきます。

学生証一体型manaca

名古屋鉄道とメイテツコムでは、平成24年4月から、名古屋産業大学、名古屋文理大学・同短期大学部及び、名古屋文理栄養士専門学校に、東海地方で初となる、学生証とmanacaが一体となった「学生証一体型manaca」を発行しています。また、平成25年9月からは、大同大学において発行を開始しました。各大学・学校において、manacaの認証機能を活用した出欠・入退室などの学修管理や図書館管理、証明書発行などの各種学内システムへの対応が可能となるとともに、定期券として通学での利用に加え、学内の食堂や売店、自動販売機などにもmanaca電子マネー決済を導入することで、学生の利便性の向上を図っています。



学生証一体型manaca

「名鉄たまルン」ポイント

「名鉄たまルン」は、名古屋鉄道・名鉄バス・豊橋鉄道等でお買い求めいただける名鉄manacaだけのサービスで、カードの裏面に「株式会社エムアイシー」と書かれているmanacaでご入会いただけます。

manacaは、「名鉄たまルン」に入会していただくことで、「名鉄たまルン」加盟店での電子マネー利用のたびに「名鉄たまルン」ポイントがたまります。たまった「名鉄たまルン」ポイントは、チャージ券と交換して、manacaにチャージすることで、通常のカード残額として、電車・バスのご乗車や乗車券の購入、お店でのお買い物などにご利用いただけます。



パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

マイカーの利便性と鉄道の環境効率のよさを組み合わせた「パーク&ライド駐車場」の整備を積極的に進め、その活用をお客さまに呼びかけています。移動手段をマイカーから鉄道に切り替えていただければいただけるほど、地域の環境負荷軽減につながります。より多くのお客さまに最寄りの駅の駐車場にマイカーを止め、駅からは鉄道をご利用いただけるよう、沿線に約22,600台の駐車場を整備しています。



パーク&ライド駐車場(太田川駅)

平成24年度新規整備台数
74台(太田川駅)、140台(常滑駅)、30台(多屋駅)

「パーク&ライド割引」サービス

名古屋鉄道と名鉄協商では、名鉄電車とICカード「manaca」利用促進および、名鉄協商の駐車場の利便性向上を目的に、manacaを使った「パーク&ライド割引」サービスを名鉄協商パーキング「豊橋西」および「新鵜沼」において展開しています。このサービスは、上記駐車場を出庫する際、駐車場の最寄駅の降車情報(駐車した日と同日に限る)が記録されたmanacaを専用端末にタッチすると、自動的に駐車料金から一定金額が割引されるものです。

両社では「パーク&ライド」を積極的に推進しており、今後もさまざまなサービスを通して、「パーク&ライド」の更なる普及を図っていきます。



パーク&ライド割引対応精算機

地域環境貢献

沿線での清掃奉仕活動

名古屋鉄道は駅をはじめ沿線を中心に、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする名鉄グループの会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜に名鉄名古屋駅周辺の清掃活動を行っています。

また、舞木検査場や犬山検査場では、名鉄エコ・プランの行動指針の一環として、地球環境への貢献を目的に検査場周辺の清掃活動を定期的を実施しています。



「名駅をきれいにする名鉄グループの会」の清掃活動



検査場周辺の清掃活動

環境イベントの実施

環境イベントを通じて、当社の環境活動について広くご理解いただけるよう努めています。平成24年度は、岡崎市主催の「公共交通に親しむ日」に参画し、エコムーブトレインの車内でエコ教室を実施しました。

また、「名鉄でんしゃまつり」では会場内で当社の環境活動を紹介したほか、エコ教室やクイズラリー形式で楽しく環境について学ぶ企画を実施しました。今後も地域の皆さまと環境について考えるイベントや活動を進めてまいります。



エコ教室

経済産業省「次世代エネルギー・社会システム実証地域」 豊田市低炭素社会システム実証推進協議会に参画

名古屋鉄道は、平成22年8月より豊田市や民間企業など27団体とともに「豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト」に参画しています。

これは経済産業省の「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選定された豊田市を「環境モデル都市」として、日本発信型の地方型低炭素社会システムを構築するための実証プロジェクトであり、生活者の行動動線に沿った生活圏全体でのエネルギーの最適化と低炭素交通システムの構築をめざすものです。

このプロジェクトの一環として、当社では、平成24年10月から中京大学豊田キャンパス周辺で行われている「Ha:moRIDE(ハーモライド)」の先行実証から協力しています。これは、同大学の学生・教職員の約100人を対象に、キャンパスの最寄り駅である浄水駅・愛知環状鉄道の貝津駅と大学間、及び駅周辺の移動を、超小型EVや電動アシスト自転車のモビリティ・ネットワークで補完するもので、両駅において駐車・駐輪スペースを提供しています。先行実証は平成25年秋まで実施され、現在はサービスエリア・規模を拡大し、本格実証を行っています。



超小型EV



電動アシスト自転車

環境法令の遵守

環境教育

従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として最も重要であると考え、全従業員に対して、定期的に環境教育を実施しています。(新規採用時、入社10・20年経過時等)

●平成24年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	95名
入社10・20年次研修	257名
合計	352名

改正省エネ法への対応について

名古屋鉄道は、平成18年4月に改正された省エネ法に基づき、特定輸送事業者として、鉄道事業に係る省エネルギー計画書および毎年のエネルギー使用量の報告を行っています。

また、平成21年4月に改正された省エネ法に基づき、平成24年度分の当社全体のエネルギー使用量を届出しています。

PCB廃棄物への対応について

カネミ油症事件に端を発し、製造が禁止された絶縁油「PCB」は、変圧器や整流器、蛍光灯の安定器等で多く使用されており、機器の使用中止後も専用の処理施設以外での廃棄処分は認められていません。

当社でも柱上トランスや、車両、ビルの電気室などでPCB使用の電気機器があり、使用後は厳重に保管をしています。平成20年1月に当社の廃棄物の処理が始まり、法で決められた処理期限(平成39年3月末)までに完了する予定です。



PCB廃棄物の搬出作業



● T O P I C S ●

太陽光発電事業に参入

平成25年度より当社資産の有効活用を目的として、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を活用した太陽光発電事業を開始します。

同事業を開始するのは、静岡県湖西市(敷地面積:約15,000m²、年間発電量:約981,000kWh)と愛知県美浜町(敷地面積:約14,000m²、年間発電量:約813,000kWh)の自社所有地2ヵ所、25年度中の中部電力(株)への売電を予定しています。

当社のほか、グループ会社である中央設備エンジニアリング株式会社は豊橋鉄道株式会社の愛知県新城市(敷地面積:約27,000m²、年間発電量:約1,540,000kWh)の所有地で、平成25年8月より発電事業を開始しています。同社は企画設計から施工、運営管理まで行い、発電事業に関わる技術を蓄積します。

また、名鉄協商株式会社では、名古屋市の自社建物の屋根において、平成24年度より発電事業を開始しています。



名鉄新居井天太陽光発電所

名鉄エコプロジェクト2013

名古屋鉄道では、平成18年6月から環境にやさしい鉄道の利用促進をPRするキャンペーン「電車で、ECO MOVE。」を展開していますが、その一環として、本年で第6回目となる「名鉄エコプロジェクト2013」を平成25年5月25日～平成26年3月31日まで実施しています。

このプロジェクトは鉄道の環境優位性および名鉄グループの環境への取り組みをご理解いただくとともに、環境に対する意識を高めていただくことで、名鉄沿線の豊かな自然や風景を守り、次世代につないでいくことを目的としています。



1 “エコムーブトレイン”の運行

平成20年の運行から今回で6代目となるエコムーブトレイン。沿線の動植物がエコのナビゲーターとなり、楽しげな表情、全体の色使いで、電車に乗って楽しくエコ活動できる様子をデザインしています。車内では、名鉄グループの環境への取り組みや、エコ活動についての情報を紹介したポスターを紹介しています。



エコムーブトレインデザイン

名鉄エコかるたは計47種類!

名鉄グループの環境への取り組みや、エコ活動についての情報をどんな方にも分かりやすく、楽しく理解していただけるよう、「いろはかるた」の様式で車内中吊りポスターを掲出しています。



名鉄エコかるた(一例)



2 名鉄グループ提供ラジオ番組「ECO STATION」の放送

平成25年6月から平成26年3月の期間中、毎週月曜から金曜8:40～8:45にZIP-FMにおいて、名鉄グループ提供のラジオ番組「ECO STATION」を放送しています。番組内では、月曜日から木曜日は、リスナーの皆さまから寄せられた「身の回りのエコ」や「私のエコ宣言」など、エコに関するメッセージの紹介や、お子さまの生物や自然に関する疑問にお答えしています。金曜日は、「名鉄沿線おでかけマガジン『Wind』」で紹介している駅周辺の情報や街について紹介します。

3 「日本モンキーセンター スーパーサマースクール」の開催

夏休みに小学校高学年～中学1年生の子どもたちを対象として、1泊2日体験型の本格的環境学習プログラム「日本モンキーセンター スーパーサマースクール」を3回にわたり開校しました。

毎回大勢の子どもたちが東京・大阪・名古屋から参加し、レクチャーやオリジナル「サルとヒトの進化図鑑」づくりを通じて霊長類学を学び、飼育体験、石器づくりと石器を使った調理体験、夜の動物園探検などを体験。サルを通じて進化や生物多様性について学びました。



4 メッセナゴヤ2013出展

平成25年11月13日～16日に開催される「環境・安全・モノづくり」をテーマとした日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2013」(於:ポートメッセなごや)に当社及びグループ3社(名鉄協商・メイエック・名鉄産業)で共同出展します。当社グループの環境に対する取り組みや、環境関連商品やサービスの紹介・販売促進をすることにより、「環境にやさしい名鉄グループ」をPRします。



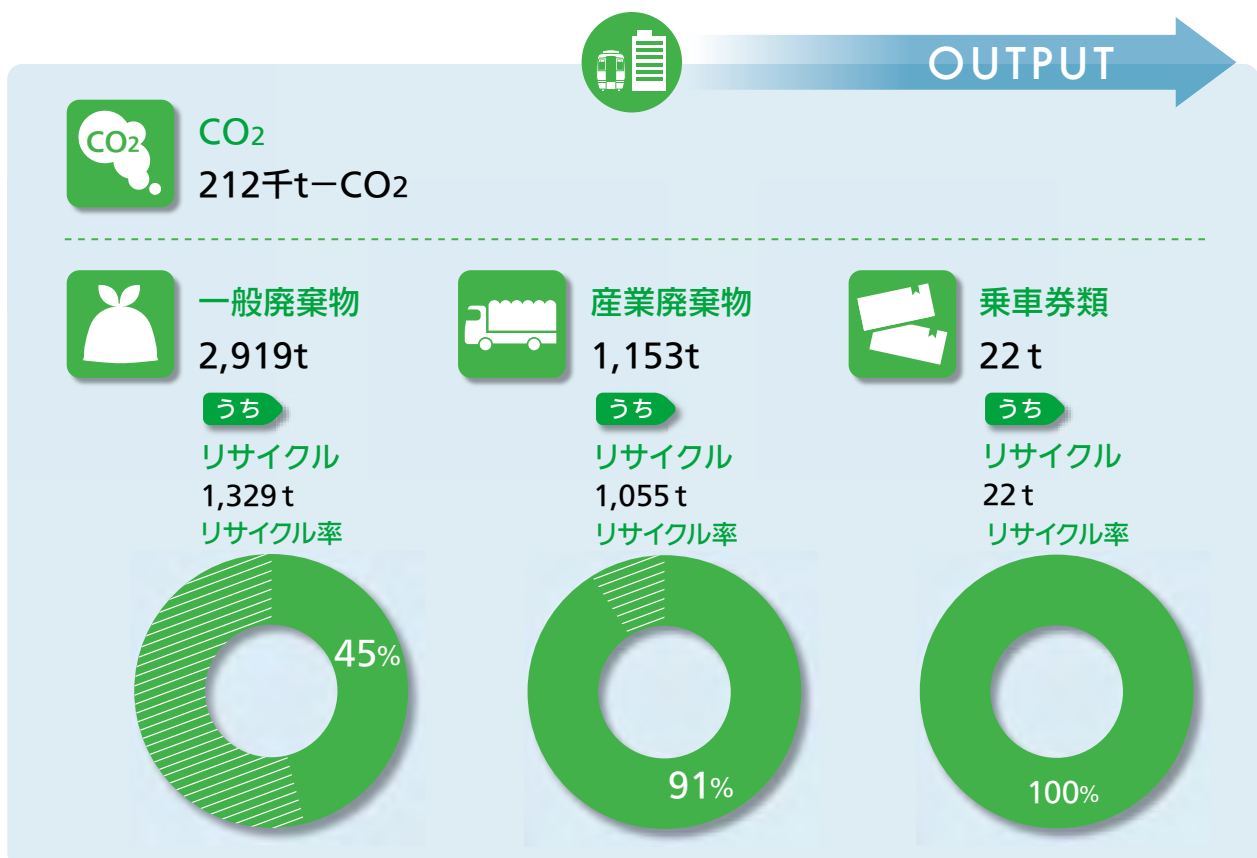
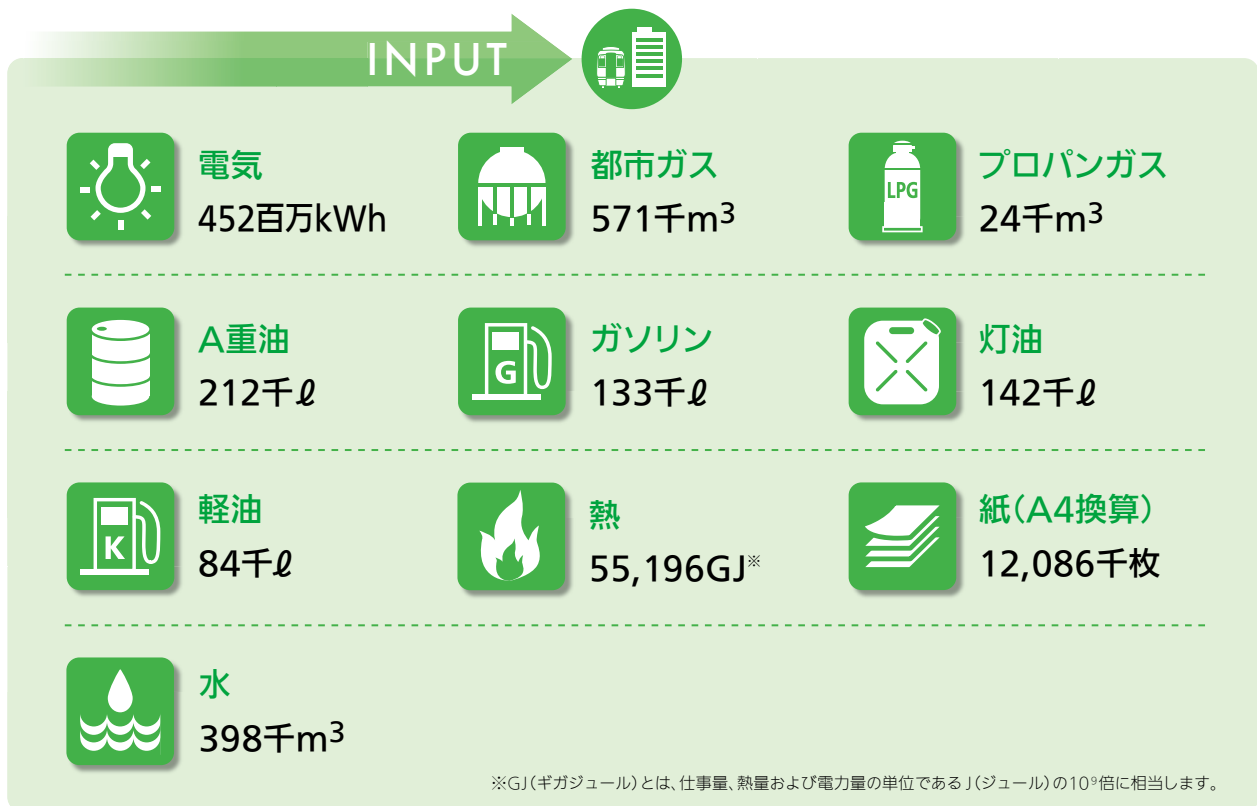
昨年イベント風景



環境負荷データ



事業活動において、電力をはじめとしたエネルギーや資源を消費し、温室効果ガスや廃棄物を排出しています。これらの環境負荷をINPUT・OUTPUTとして把握し、環境負荷を低減する活動につなげています。



・名古屋鉄道㈱のみの数値。 ・数値は、切り下げて表示。 ・産業廃棄物の数値には、乗車券類の数値を含まない。
・二酸化炭素排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠。

環境会計



環境保全への取り組みを、投じたコストやその効果への両面からできるだけ定量的に把握し、効果的かつ効果的に環境活動を行うため、環境会計を導入しています。

平成24年度の環境保全のための投資額は21億17百万円、費用額は4億56百万円でした。新型車両の導入・電気設備の改良等による省エネルギー化、環境教育やイベントを通じた啓蒙など、環境保全に対して積極的な活動を行いました。今後も環境保全コストの管理やその効果の分析を行うことにより、より一層効果的な環境保全活動に取り組んでいきます。

■環境保全コスト

(単位:千円)

内容		投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト		2,117,559	388,534
内訳	①公害防止コスト	騒音対策:ロングレール化、PCマクラギ化、レールの重量化、防音車輪導入など 水質汚染対策:排水・汚水処理設備の設置、改修など	448,904
	②地球環境保全コスト	新型車両の導入、ICカード対応、き電線改良、シリコン整流器更新、VVVF制御化など	1,668,655
	③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、廃棄物のリサイクルなど	0
(2)上・下流コスト		グリーン購入	0
(3)管理活動コスト		人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用、環境報告書の作成、イベント費用など	0
(4)社会活動コスト		環境保全を行う団体への支援など	0
環境保全コストの合計		2,117,559	456,114

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		指標の分類	指標の値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力	2,307,075kWh
		太陽光発電	1,029kWh
		水道水	11,157m ³
(2)上・下流で生じる環境保全効果 (上・下流効果)	②事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券のリサイクルによる廃棄物抑制量	22t
		(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

効果の内容		金額
収入	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	122,377
費用	省エネルギーによるエネルギー費用削減	40,847
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3,181
合計		166,405

- 集計期間:平成24年4月1日~平成25年3月31日
- 集計範囲:名古屋鉄道㈱の事業範囲
- 確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上
- 金額は税抜き、千円未満を切り捨てて表示
- 環境省「環境会計ガイドライン」および(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠
- 事務用品におけるグリーン購入費用は全額計上
- 費用に減価償却費は含まず



名鉄グループの取り組み



交通・運送

運輸部門では、鉄軌道をはじめ、乗合バス・観光バス・タクシー等の旅客輸送事業や、トラック・海運・航空等の事業を中心に、幅広く地域の皆さまの生活に根ざした事業を展開しています。

“沿線花いっぱい運動”の実施

豊橋鉄道グループでは、地域の皆さまから信頼され親しみをもって利用していただくための環境づくりを継続実施しております。今年度もグループの環境推進運動の取り組みとして、“沿線花いっぱい運動”を実施しました。この運動は、花をテーマに、豊橋鉄道渥美線沿線の遊休地を活用し、緑化・景観整備を行うもので、田原市「菜の花まつり」に合わせた地域連携事業の一環として、渥美線沿線に“菜の花畑”を整備しました。



渥美線沿線に整備した菜の花畑

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 事業部 0532-53-2134

輸送効率向上による環境対策への取り組み

名鉄運輸では、CO₂の削減や環境対策強化の一環として、アイドリングストップ車など低燃費車の導入に努めています。長距離を走行する路線運行車には全車両エコタイヤを装着するとともに、デジタルタコグラフの装着を進め、ドライバーの経済走行に対する意識向上を図っています。

また、エコドライブ研修会に乗務員を積極的に参加させ、省エネ運転の指導を通しての燃費向上も図っています。

一方では、グループ間での重複配達エリアを見直し、再編を行うことを通じて輸送効率を向上させることがCO₂総排出量の抑制に繋がるため、この面でも環境負荷軽減に努めています。



アイドリングストップ車

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-3987

バイオディーゼルバスを導入

名鉄バスでは、捨てられる油(天ぷら油など)を再利用した燃料で動くバイオディーゼルバスを導入しています。元々、生物から出来た油を再利用しているため、石油などの化石燃料と異なり、バイオディーゼル燃料は、二酸化炭素を元々大気内に存在していた以上に発生しません。リサイクルしてさらに空気を汚さない、地球に、人にダブルで優しい燃料を使うことで、環境負荷軽減に寄与していきます。

※名鉄バスでは、名鉄グループ内のホテル・レストラン・遊園地などの飲食施設等から回収した使用済みてんぷら油(植物油性廃食用油)を使用しています。



お問合せ
名鉄バス株式会社 管理部
052-588-0780

路線バス停留所にソーラースポットライトを導入

名鉄バスでは、平成22年3月より、一般路線・空港線の全停留所約2,400カ所に、時刻表を照らすソーラースポットライトを導入しています。このライトは、同社が開発に協力し、東洋ライト工業(株)が発売する「光光息子(こうこうむすこ)II」で、日中に太陽光パネルで発電した電気をニッケル水素電池に蓄え、日が陰った後、人が近づくとセンサーが感知して発光ダイオード(LED)が点灯し、時刻表を照らす環境にやさしい照明です。これにより、夜間に時刻表が見やすくなることに加え、防犯灯の役割も期待できます。



ソーラースポットライトを導入した停留所

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780

中部地区初となる“3E-HYBRIDカー”を運行開始

名鉄タクシーホールディングスでは、ガソリン・LPG・電気の3つのエネルギーで走行するHYBRIDカー(3E-HYBRIDカー)を傘下の事業会社である名鉄交通及び名鉄名古屋タクシーで、タクシー事業者として東海地方初の導入を行い、平成24年12月から運行を開始しています。

この3E-HYBRIDカーは、トヨタ製「プリウスα」をベースに、ガソリンと電気の機構はそのまま残し、LPGが併用できるように改造したものです。ガソリン車と比べてCO₂の排出量を12%削減し、人体に有害とされるPM(浮遊粒子状物質)や黒煙、NO_x(窒素酸化物)を大幅に削減した環境にやさしい車両です。また、無給油走行距離もガソリン、LPG共に満タン時で約1,600kmとなり、災害時の救援車両としても活躍が期待されます。



3E-HYBRIDカー

お問合せ 名鉄タクシーホールディングス株式会社 経営企画部 052-331-2227



不動産・技術

不動産部門では、土地建物の販売・賃貸借、不動産の仲介業、建築工事の設計・施工・監理などの事業を展開しています。また、情報・電気・通信等の分野で幅広く技術開発およびサービス提供を行っています。

クールベープについて

ヤハギ道路は、ワンランク上の高保水性能を特長とした、地球環境にやさしい保水性舗装「クールベープ」の提案を進めています。真夏日には60℃近くまで上昇する路面温度を、舗装内に吸収した雨水等水分の気化熱によって10℃以上低減します。この効果によって都市部のヒートアイランド現象を抑制し、熱帯夜の解消に貢献します。市街地道路、生活道路、駐車場の他、サイクリングロード、公園広場、団地内、歩径路、遊歩道といった「人」が集うあらゆる場所におすすです。今後も、クールベープを通じ、人に優しい生活環境の実現に貢献していきたいと考えています。

お問合せ ヤハギ道路株式会社 0565-36-1112



保水性舗装

EGPについて

ヤハギ緑化では、芝生駐車場「EGP」(Ecological Grass Parking)の普及を推進しています。自動灌水装置の標準装備や既存舗装上への直接施工を可能にするなど、技術向上に努めてきました。従来は、工場立地法や地域緑地制度の緑地面積確保対策として多く採用されてきましたが、最近は都市緑化への助成制度も整備されつつあり、民間企業等への環境提案も積極的に行っています。また、ウェスティナゴヤキャッスルでの取り組みをはじめとした産官学協働の都市緑化実験にも参画しており、都市環境や景観・防災・生物多様性を軸に地域貢献していきたいと考えています。

お問合せ ヤハギ緑化株式会社 緑化事業本部 052-937-6551



芝生駐車場

次世代自動車充電インフラ整備促進事業のお手伝い

メイエックは、次世代自動車(電気自動車・プラグインハイブリット車)のエネルギー変換効率の良さに着目し、これらの急速充電器の規格標準化・国際規格化を目的として設立された組織「チャデモ協議会」に加入し日夜情報収集を行っています。

設置場所探しから設置後のメンテナンスまでトータルに提案出来る体制を整えて、表題の事業に関する補助金制度(自治体主導型:設置工事費の2/3補助・公共性を有する自主設置型:設置工事費の1/2補助)を利用して設置される運輸・レジャー・流通部門事業者様のCO₂削減のお手伝いを致します。

お問合せ 株式会社メイエック 営業部 052-678-1773



急速充電器

無線センサネットワークを用いた新型情報システムの開発

メイエックでは、通信コストが不要な無線センサネットワークを利用したバスロケーションシステムを開発しています。バスロケーションシステムではバス位置情報の収集・配信に携帯電話網が一般的に利用されていますが、通信費がかかってしまいます。一方、コミュニティバスを運営する地方自治体やバス事業者には、運用費をできる限り削減したいという思いがあります。公共交通の利用促進と環境負荷の軽減に寄与し「公共交通が元気になる、まちが元気になる」、そんなシステム開発にこれからも取り組んでいきます。

お問合せ 株式会社メイエック 技術開発部 開発課 052-678-1847



バスロケーションシステム



名鉄グループの取り組み



流通 レジャー・ サービス

流通部門では、百貨店事業や、小売事業、駐車場・カーリース事業など、多岐にわたって事業を展開しています。

さらにレジャー・サービス部門では、ホテル事業やアミューズメント事業、博物館明治村をはじめとした文化テーマパーク事業や、ロープウェイ事業などを展開しています。

復興を支援する『スマート・クール・バッグ』

名鉄百貨店では、本店、一宮店ともに、毎年夏季に製作される、日本百貨店協会の「スマート・クール・バッグ」をご紹介します。百貨店らしい容器包装削減対策を目的として、日本百貨店協会では平成19年から毎年夏季に百貨店統一のエコバッグを製作しています。平成21年からは保冷タイプの初代となる『スマート・クール・バッグ』を販売、東日本大震災直後の平成23年からは売上の一部を震災への復興支援として寄付しています。『スマート・クール・バッグ』は、価格が税込300円とお手頃で、大きさ、機能の面で使いやすいと、毎年ご好評をいただいています。

※ 平成25年寄付
「岩手・宮城・福島の子供達のための基金」へバッグ1枚につき、5円寄付させていただきます。



本店フレッシュステーションサービスカウンター
(メンズ館地下1階)



一宮店食品サービスカウンター(地下1階)

お問合せ 名鉄百貨店 施設部環境・防災・ISO担当 052-585-2470(ISO担当)

カーシェアリング・サービス「カリテコ」の実施

名鉄協商では車を利用し、情報を駆使したエコなサービス「car+it+eco」=カリテコを展開しています。車をシェア(共有)する事により、CO₂削減・渋滞緩和や交通事故の減少に繋がります。また、名鉄発行のmanacaでカリテコの登録ができます。

現在はステーション数160カ所、車両台数200台(平成25年4月現在)となっています。



カリテコステーション

お問合せ

名鉄協商株式会社 カーシェア事業部 052-582-2495

「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売

名鉄産業では、平成20年7月から名鉄グループのバス・トラック会社を中心とした運輸会社向けエンジンオイル「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売しています。このオイルは、「名鉄」の名を冠した名鉄産業初のPB商品で、従来の製品より交換サイクルを長くすることが可能となり、整備費や廃油排出量の削減につながるほか、平成15年規制の排出ガス規制に対応した環境にやさしいエンジンオイルです。

すでに名鉄グループのバス会社、運送会社に広く採用されています。

お問合せ 名鉄産業株式会社 エネルギー商事部 052-821-2105



MEITETSU ECO DIESEL OIL

CO₂排出削減事業の認証取得とクレジットの移転(売却)

名鉄クリーニングは、平成21年7月に、国内クレジット認証委員会(経済産業省主管)において、CO₂排出削減事業の認証を取得しました。国内クレジット制度とは、大企業が中小企業のCO₂削減事業に対し、その削減実績に基づく排出権(クレジット)を契約単価で購入する制度です。平成25年4月に国内クレジット制度はJ-クレジット制度へと統合され、CO₂削減事業の認証期間が事業開始から最大8年まで延長可能となり、同社もJ-クレジット制度への移行手続きを進めています。

同社では、平成20年12月に補助金を活用したESCO事業として導入した高効率貫流式ガスボイラーによって燃料の節減を図りました。従来の重油ボイラーに比べ、年間約1,000tのCO₂削減が実現されており、平成21年度からこのクレジットを三菱東京UFJリース(株)の仲介により売却しています。

お問合せ 株式会社名鉄クリーニング 052-501-5511



貫流式ガスボイラー

国内クレジット制度排出削減事業 承認証

南知多ビーチランドの知多半島におけるフィールド調査内容

名鉄インプレスが運営する南知多ビーチランドでは、開園当初から既に30年以上、三河湾・伊勢湾に生息するスナメリのフィールド調査を継続しています。スナメリは三河湾・伊勢湾を代表する生きもので現在、絶滅危惧種に指定されているイルカの仲間です。主な調査としては死んで打ち上がったスナメリを調べるストランディング調査で、その大きさを調べることや、解剖することで、自然界のスナメリが何を食べていたのか具体的に知ることもでき、これまでの調査では、イワシやイカナゴ(コウナゴの和名)など群れを作る魚類の他、タコやシャコなど海の底に棲む生きものを食べていたことがわかりました。こうして蓄積したデータを発信し、我々の身近に棲んでいる生きものたちの情報をお伝えしながら、たくさんの方に海の生きものの理解者になってもらえるような活動を続けていきます。

お問合せ 南知多ビーチランド 0569-87-2000



打ちあがったスナメリ

使用済み天ぷら油のリサイクル活動

名鉄産業では、平成20年2月から使用済み天ぷら油を自社飲食店の他、名鉄レストランなどから回収し、それを提携会社にて環境にやさしい「100%のバイオディーゼル燃料」にリサイクル・再資源化する取り組みを行っています。軽油と比べCO₂削減効果があり、地球温暖化防止の一助となっています。「バイオディーゼル燃料」は、路線バスの運行用として名鉄バスへ供給しています。

お問合せ 名鉄産業株式会社 エネルギー商事部 052-821-2105



リサイクルの環

環境にやさしい自動販売機

名鉄産業では、平成19年以降に、環境を配慮した『ヒートポンプ式自動販売機』の設置を推進しております。これは通常の自動販売機に比べ、電気使用量を約30%も大幅に削減でき、それとともないCO₂排出量も削減できます。

ヒートポンプ技術は、エアコンや給湯器で利用されている大気熱を吸収し圧縮機によって電気エネルギーに変え、その電気エネルギーを暖かい熱エネルギーに変える技術です。

また、冷却時に発生する排熱を有効利用し、効率的に自動販売機内の加熱販売製品を加熱します。平成25年には名鉄産業の全稼働台数の約40%を超える見込みです。

お問合せ 名鉄産業株式会社 販売部 052-821-2109



ヒートポンプ式自動販売機

電車で、ECO MOVE。

地球環境への問題意識が高まる中、皆さまが普段心がけている「エコ活動」にはどのようなものがあるでしょうか。エコバッグを持ち歩き、レジ袋を断ったり、電気をこまめに消したり、家電製品を省エネタイプのものに買い替えたり、いろいろな活動が思い浮かぶと思います。

しかし、身近な「エコ活動」の一つに「鉄道を利用すること」が非常に有効であることをご存知でしょうか。地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の、国内で排出される約2割は人や物の移動に関わる運輸部門によるもので、そのうちのほぼ半分がマイカーによるものです。一方で、一度に多くの人を運ぶことができる鉄道は、そのわずか3%にすぎません。さらに、1人を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素量を比較しても、鉄道はマイカーの約9分の1となり、鉄道を利用することがいかに環境にやさしい移動手段

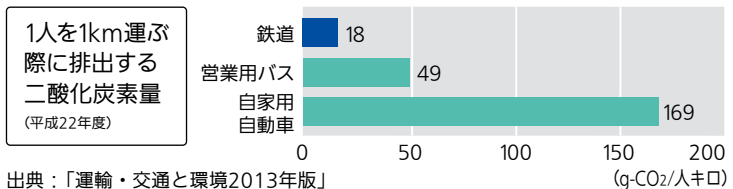
であるかをお分かりいただけたと思います。マイカーの環境性能は日々向上していますが、その保有台数の多さが地球環境へ大きな負荷をかけています。

名古屋鉄道では、電車で移動するという行動そのものが、環境にやさしい行動であることをもっと知っていただきたいという思いから、平成18年6月から「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。“ECO MOVE（エコムーブ）”とは、電車を使って「環境にやさしい移動をしよう」「環境にやさしい行動をしよう」というメッセージを込めた当社オリジナルのエコキャッチフレーズです。

キャンペーンを象徴する「エコムーブマーク」を定期乗車券や当社発行のパンフレット類、また社員の名刺に印刷するなど、皆さまの身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけています。



省エネルギー車両(3300系)



「エコムーブマーク」デザインのコンセプト



「ecology(環境)」の頭文字「e」をベースに、環境保全の象徴として誰もが認識できる「地球」をデザインの中心に据えています。親しみやすい「笑顔の電車」が、弧を描きながら上昇していくさまは、鉄道事業の躍動感とともに、環境にやさしい移動手段としての使命の永続性を表現しています。遠目には、地球のまわりをコトコト走り続ける、人にも環境にもやさしい電車を連想させ、鉄道事業と環境との調和を、柔らかに、かつ明快に示しています。

「パーク&ライド」で環境にやさしく！

「パーク&ライド」とは、会社や学校などの目的地に、直接クルマで行くのではなく、最寄りの駅やバス停近くの駐車場にクルマを停めて、鉄道やバスに乗り換え、目的地に向かう移動方法のことです。

パーク&ライドのメリット

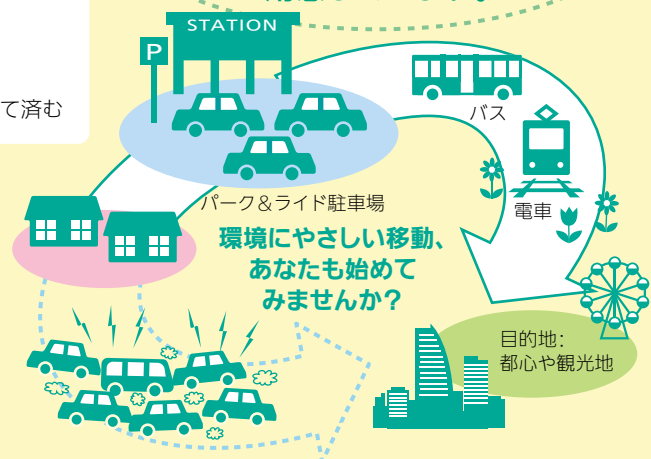
渋滞する場所に行く前に乗り換えるので

- 環境負荷を低減できる
- 運転でイライラせずに済む
- 鉄道や地下鉄で予定時間までに確実に早く着ける
- 目的地で空き駐車場を探し回らなくて済む
- 都心や観光地の中心部の割高な駐車料金を払わなくて済む



国府宮駅前パーキング

名古屋鉄道では、パーク&ライドに適した駐車場を沿線に約22,600台分用意しています。



名古屋鉄道では、社会への貢献活動の一環として、一部を財団法人と共に、文化財保護に積極的に取り組んでいます。

明治村

芸術上・歴史上価値の高い明治・大正期の建築物が、震災・戦争などで多く失われ、ここに戦後の産業の高度成長によって生じた開発事業により、少なからず



帝国ホテル中央玄関

姿を消してしまいました。取り壊されていくこれらの文化財を惜しんで、その保存を図るため、旧制第四高等学校同窓生であった谷口吉郎博士(博物館明治村初代館長)と土川元夫氏(元名古屋鉄道株式会社社長)とが共に語り合い、二人の協力のもとに明治村が創設されました。

博物館明治村は、昭和37年に財団法人として発足し、昭和40年の開村以来、約100万平方メートルの敷地の中に、国指定重要文化財に指定された建物10棟、国登録有形文化財に指定された60余件を保存展示しています。平成24年4月には公益財団法人へ移行し、平成27年3月には開村50周年を迎えます。

如庵 (じょあん)

如庵は、茶の湯の創世期に尾張の国が生んだ大茶匠・織田有楽斎が建てた茶室で、昭和11年に国宝の指定を受けた茶道文化史上貴重な遺構です。

織田有楽斎は信長の実弟として、天文16(1547)年に生まれ、波瀾に富んだ人生を送りました。有楽の生涯を写すがごとく、茶室如庵は各地を転々としましたが、昭和47年に犬山城下の佳境の地に名古屋鉄道によって移築され、「有楽苑」と名づけられました。犬山城の東にある有楽苑には、国宝茶室如庵、重要文化財旧正伝院書院、古図により復元された元庵、新しく建てられた弘庵などがあり、静かな佇まいをみせています。

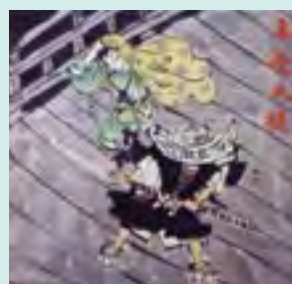


有楽苑 如庵

杉本美術館

昭和61年11月、名古屋鉄道が財団法人(現・公益財団法人)杉本美術館を設立し、地元出身の洋画家である杉本健吉氏の「芸術作品は、パブリックなものであり、個人の収集家によって死蔵されるのではなく、公的な場で広く一般の人々に見てもらいたい」という信念から美術館を開館しています。美術館には、絵画作品・資料・愛蔵品など約9,700点が保管されています。

杉本健吉【1905～2004 名古屋市出身】



「新・平家物語」より
『あわれ月夜かな』
21.5×23.0cm
1986





社会的活動報告



地域の皆さまに、安心、快適を提供し
地域社会の発展に貢献します。

安全への取り組み



鉄道事業にとって、一番大切なものは「安全の確保」です。
お客さまの信頼に応えるべく、日々努力し、安全・安心・安定輸送を追求しています。

安全に関する基本方針と安全重点施策

平成18年10月に「鉄道安全管理規程」を定めて安全管理体制を強化するとともに、「安全に関する基本方針」および「安全重点施策」を策定し、会社が一丸となって安全性の向上に努めています。

安全に関する基本方針

会社一丸となって、安全・安心・安定輸送と快適なサービスを提供することにより、地域社会の発展に貢献していきます。

- 1 事業の推進に当っては、安全の確保をすべてに優先させます。
- 2 法令・規則を遵守し、高い倫理観を持って事業活動を行いません。
- 3 安全意識を高く持ち、社会の変化に対応した体制をつくります。
- 4 事故が発生した場合は、一致協力してお客さまの安全を第一に行動します。
- 5 常に安全に関する知識・技能の習熟に努めます。

平成25年度 安全重点施策

- 1 有責事故の撲滅を目指し、ヒューマンエラー、施設・車両故障の削減
- 2 部署・部門間の連携をより強化し、安全管理体制のさらなる向上
- 3 教育体制の高度化と安全関連設備の整備継続

各部署は、安全重点施策に基づき、部署ごとの業務内容にあわせた具体的目標を作成し、取り組みを行っています。

安全管理体制

経営トップによる現業職場とのコミュニケーション確保

社長や安全統括管理者をはじめとする役員は、定期的
に職場巡視を実施し、輸送の安全確保の取り組み等につ
いて確認するとともに、現業職場の会議に出席し、意見交
換を行うなど、現場とのコミュニケーションを確保してい
ます。



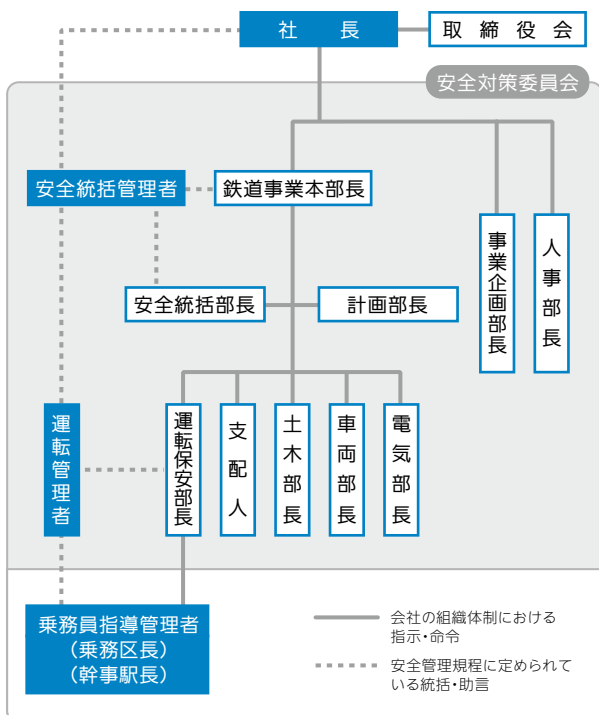
山本社長による職場巡回

安全管理体制

社長を最高責任者とし、安全統括管理者、鉄道事業本部長、運転管理者、運転保安部長、乗務員指導管理者および関係部長などの役割を明確にした安全管理体制を構築しています。

安全対策委員会は、輸送業務の実施および管理の方法を確認し、事故の再発防止対策等、安全性の向上を図るための施策を推進しており、年1回以上開催しています。

■安全管理体制図



安全性向上対策

列車の安全対策

■ATS(自動列車停止装置)

ATSは、列車が信号または曲線などで、設定された制限速度を超えて通過すると自動的に非常ブレーキが作動する装置です。



ATS車上装置



ATS地上装置

■非常通報器

非常通報器とは、ボタンを押下することにより列車内で非常事態が発生したことをお客様から乗務員へブザーで知らせる装置です。新しいタイプの非常通報器は乗務員と通話する機能を備えており、どのような異常なのかを乗務員に伝えることができます。



■防護無線

防護無線とは、列車運転中に事故や災害等に遭遇した場合、二次災害の発生を防ぐため、運転台にあるボタンを押すことにより列車から電波を発信し、現場付近の列車に速やかに緊急事態の発生を知らせる装置です。平成24年度末現在で304編成中、301編成に搭載し、搭載率は99.0%です。全運転台への防護無線搭載(自動給電機能を含む)は平成26年度に完了予定です。



■車両の検査

車両の保守については、7ヵ所の検査場・検車区において定期的に検査を行い、安全運行に努めています。また、車両の脱線防止対策として、車輪にかかる重量バランスを測定し、安定した走行ができるよう厳密に管理しています。



尾張旭検車区

安全への投資

当社では、安全関連設備投資として、平成24年度は96億円を投資しました。平成25年度も引き続き、知立駅付近をはじめとした高架化工事のほか、安定的な列車運行と事故・災害時対応力のさらなる向上のため列車の在線位置・車両番号等を運転指令及び主要駅で可視化する列車在線表示システムの導入や電力管理システムの更新を進めるなど約88億円の投資を予定しています。今後も、安全・保安対策、車両の新造、土木・電気施設の改良、踏切保安設備の新設・改良などを計画的に実施し、さらなる安全性の向上を推進します。

	安全関連設備投資	その他の設備投資	計
平成24年度(実績)	96億円	10億円	106億円
平成25年度(計画)	88億円	6億円	94億円

駅の安全対策

■列車非常通報装置

ホームからの転落時などに、お客さまや駅係員が駅構内に設置したボタンを押すと、表示装置により列車の乗務員に駅構内で異常があることを知らせます。平成24年度は9駅に増設し、これにより計117駅に同装置が設置されました。今後も順次導入を進め、平成25年度は3駅において設置する予定です。

お客さまへのお願い

ホームから転落したお客さまを見受けられたときなど、列車に危険を知らせたいときは、ホームに設置されている非常通報ボタンを押してください。



列車非常通報ボタン

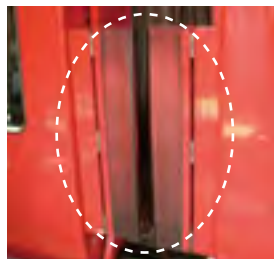
■転落検知装置

乗降車時にお客さまが列車とホームの隙間から転落された場合に、ブザーの鳴動および表示装置により列車の乗務員に異常を知らせます。現在3駅に設置しています。



■車両転落防止幌

ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に設置を進めています。平成24年度末現在で304編成中267編成に設置し、整備率は87.8%です。



踏切・線路の安全対策

■踏切障害物検知装置

踏切内での落輪や停滞などによる踏切事故を防ぐため、交通量の多い主要踏切を中心に踏切障害物検知装置を設置しています。しゃ断桿が降下を完了してから、踏切内に何らかの障害物があると検知した場合、表示装置により列車の乗務員に異常があることを知らせるとともに、連動するATSを作動させます。



お客さまへのお願い

警報機が鳴り出したら、絶対に踏切を渡らないでください。万一、車が踏切内に閉じ込められたら、車でしゃ断機のさおを押し出して、急いで踏切の外へ脱出してください。

■オーバーハングせん光灯

道路に張り出す形で設置するせん光灯をオーバーハングせん光灯といいます。遠くから踏切に接近する自動車に対して、視認性を向上し警告することができます。



■光るしゃ断桿

交通量の多い踏切のしゃ断桿に、超高輝度LEDを取り付け、警報開始と同時に点滅させドライバーに注意喚起しています。



■線路の保守

保線業務は安全輸送の要であり、定期的に線路巡視を行い、線路の状態を点検・確認して適正な線路状態を保っています。また、レール探傷やレール削正、道床のつき固めなど安全のための線路の保守を行っています。

自然災害への対策

■降雨対策

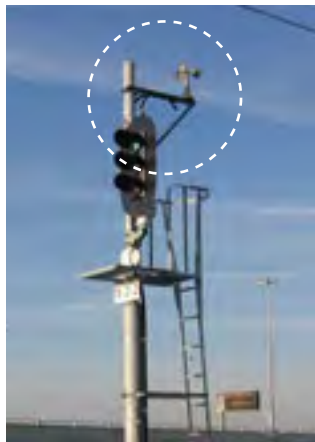
降雨時における土砂崩壊などによる運転事故を未然に防止するため、沿線主要駅に自動雨量計を設置し、計測された雨量を基に列車の運転に関する規制を行っています。自動雨量計は、現在25カ所に設置しています。



自動雨量計

■強風対策

台風、低気圧接近時など強風による運転事故を未然に防止するため、沿線の橋りょう、高架部付近に風速計を設置し、計測された風速値を基に列車の運転に関する規制を行っています。風速計は、現在12カ所に設置しています。



風速計

■地震対策

地震が発生した場合において、沿線9カ所に設置した地震計で計測された地震加速度を基に列車の運転に関する規制を行っています。震度4相当(25ガル)以上の場合、列車無線を通じ、各列車に対して自動的に停止指示を通報します。



地震計

■早期に地震を警告するシステムの導入

地震による被害を軽減することを目的に、緊急地震速報を受信するための装置を運転指令室に設置しています。受信した情報が、当社線沿線で震度4以上の地震が想定される場合、列車無線を通じ、各列車に対し自動的に停止指示を通報するシステムを導入しています。

緊急時対応訓練

■災害事故総合復旧訓練

平成24年11月13日、大江駅～東名古屋港駅間において、踏切事故を想定した災害事故総合復旧訓練を実施しました。安全輸送の完遂に向けた取組みの一環として実施するもので、踏切障害など不測の事態が発生した場合においても、お客さまの避難誘導や事故現場の復旧作業などが適切に行えるよう、駅係員・乗務員と土木・車両・電気現場の従業員など総勢約230人が参加して実施しました。



列車脱線事故復旧訓練



旅客避難誘導訓練

鉄道テロ対策

■防犯カメラの設置

テロ防止を視野に入れた防犯カメラについては、名鉄名古屋駅などに設置しています。また駅集中管理システム導入駅にも、駅務機器管理用の監視カメラを設置しており、防犯目的としての使用が可能です。



■「目に見える」巡回警備

主要駅に警戒腕章を配布し、係員が警戒巡回等を実施する際に着用することによって、テロの抑止効果を高めています。



■不審物発見時等のご協力をお願い

ポスターや列車内の電光表示器での掲示、また駅構内・車内放送等により不審物発見時等の情報提供をお願いしています。





コーポレート・ガバナンス

株主の皆さまをはじめ、広く地域社会から信頼されるグループ経営を行ううえで、公正かつ透明性の高い体制の確立が重要と考え、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立性の高い社外取締役および社外監査役を選任し、監査役会設置会社としてのコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

■取締役会

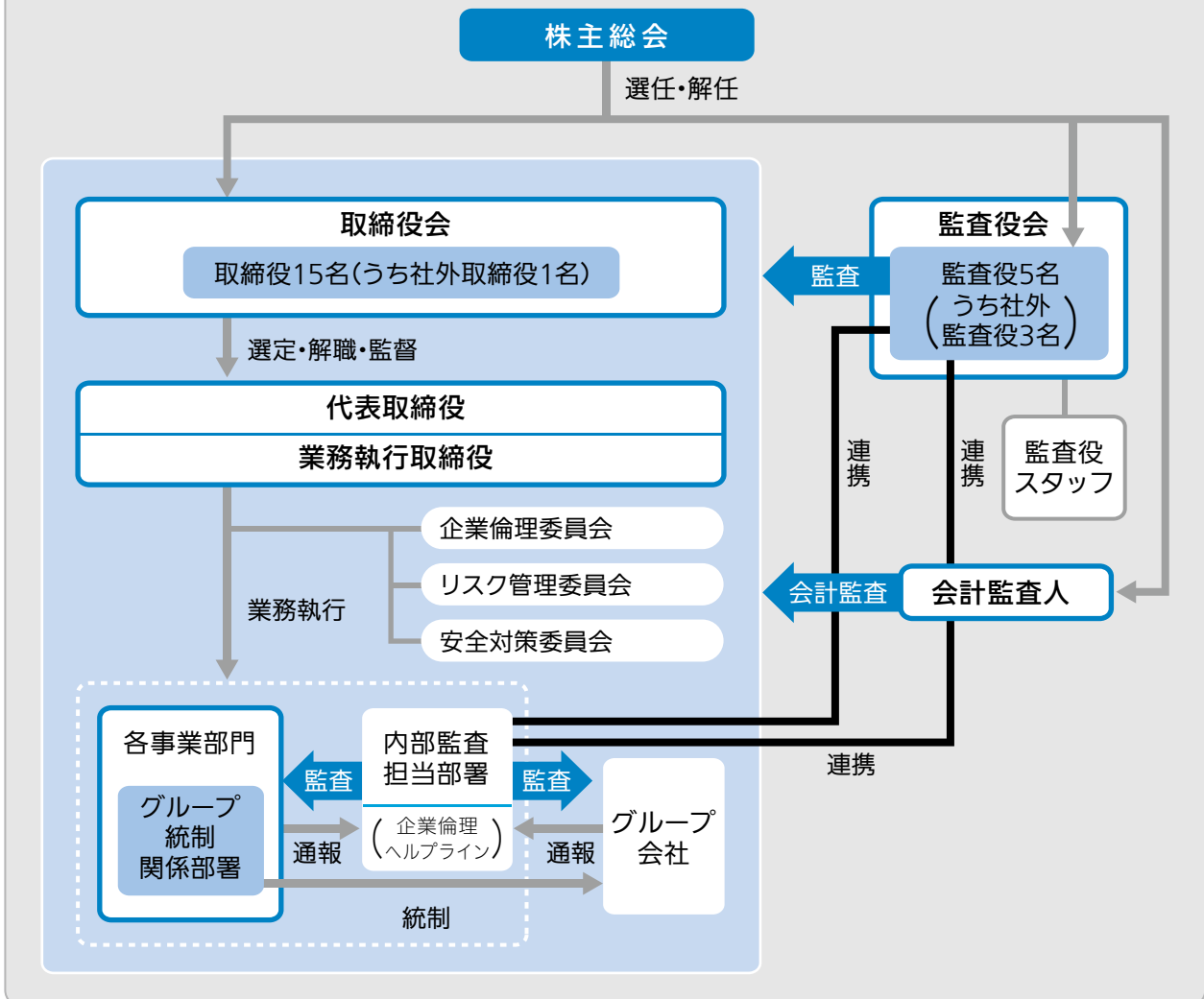
取締役会は、社外取締役1名を含む15名の取締役で構成され、原則として毎月1回開催し、経営上の意思決定事項や法定付議事項の審議、職務の執行状況等の報告のほか、グループ各社の経営政策および経営状況の報告を随時行っています。

■監査役会

監査役会は、社外監査役3名を含む5名の監査役で構成され、監査の方針、監査計画および職務の分担等を定め、各監査役はそれらに従い、取締役の職務執行、当社各部門および事業現場の監査を行い、さらに必要に応じて当社のグループ会社の調査を行っています。

社外取締役は、経営者の説明責任の確保などを踏まえ取締役会で適宜発言するなど、実効性ある監督機能の充実に取り組み、社外監査役は常勤監査役と協同して内部監査・内部統制部門および会計監査人と意見交換を行うほか、必要に応じて業務監査を実施するなど、効率的な監査業務に取り組んでいます。

■コーポレート・ガバナンス体制図



■内部監査体制

グループ監査部は内部監査担当部署として、当社およびグループ各社に対して内部統制や業務リスクなどの監査を実施し、その検証結果を経営者に対して報告するとともに問題点の改善・是正を提言しています。また、監査役ならびに監査法人との相互連携を図り、監査機能の充実に努めています。

財務報告に係る内部統制については、平成20年度より義務づけられた金融商品取引法の内部統制報告制度に基づき、内部統制の有効性評価を実施し統制状況の維持、向上に努めています。

コンプライアンス体制

名鉄グループでは、地域社会からの信頼を得ることを基本姿勢とし、誠実かつ公正な事業活動を行うことにより、社会の発展に貢献していくことを目標としています。そのために、「名鉄グループ企業倫理基本方針」を策定し、5つの基本方針と22項目の行動指針を定め、私たちの役割と責任を明確にしています。

名鉄グループ企業倫理基本方針 基本原則

1 ルールの遵守(法令遵守の徹底)

ルールを遵守し、社会規範に従い、高い倫理観を持って責任ある行動をします。また、万一、この方針に違反するおそれがあるとき、違反する行為をしたとき、または違反する行為を発見したときは、直ちに上司や関係者に報告し、適切な措置をとります。

2 安全の確保

安全の確保はすべてにおいて優先します。全社をあげて、絶えず安全が阻害されていないかどうかを監視し、安全性の向上に努めます。

3 公正な事業活動

お客様、株主、地域社会などすべての会社関係者に対し、誠実かつ公平正大に接し、透明性のある事業活動を行います。

4 積極的なコミュニケーション活動

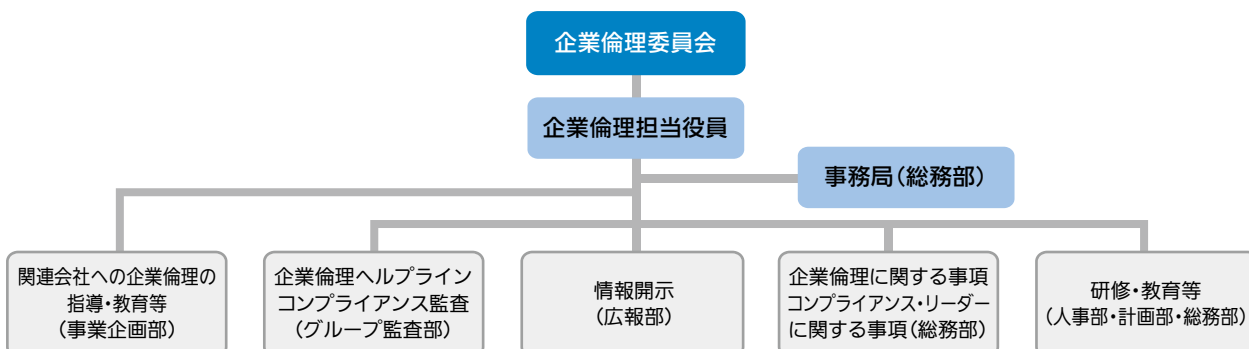
広く社会とのコミュニケーションを行うとともに、企業情報を積極的に発信し、開かれた会社を目指します。

5 人と社会の尊重

人権を尊重するとともに、良き企業市民として、社会貢献・環境保全活動などに積極的に取り組みます。

■企業倫理(コンプライアンス)に対する社内体制

社長、副社長及び関係役員で構成される企業倫理委員会が、企業倫理に関する基本方針や施策を決定し、万一、不祥事が発生したときは迅速に情報を収集して状況の把握に努め、その原因を究明して再発防止策を決定します。また、企業倫理担当役員が当社のコンプライアンス全般を統括しています。



■企業倫理ヘルプライン(コンプライアンス相談窓口)

不正・違反行為の未然防止や早期対応、再発防止のため、従業員等から直接相談・報告を受け付ける「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。社内外の窓口を設け、匿名通報も可能な体制で運用しており、通報者の相談しやすい環境を整備しています。

■主なコンプライアンス活動

○企業倫理行動マニュアルの配布

名鉄グループ企業倫理基本方針に定められた基本原則や行動指針についての具体的な事例をマンガで解説した「企業倫理行動マニュアル」を全従業員に配布し、従業員のコンプライアンス意識の向上を図っています。



○コンプライアンス責任者、コンプライアンス・リーダーの任命

各職場ごとにコンプライアンス責任者とコンプライアンス・リーダーを任命し、職場内での働きかけや相談等を通して、コンプライアンス意識の浸透に努めています。

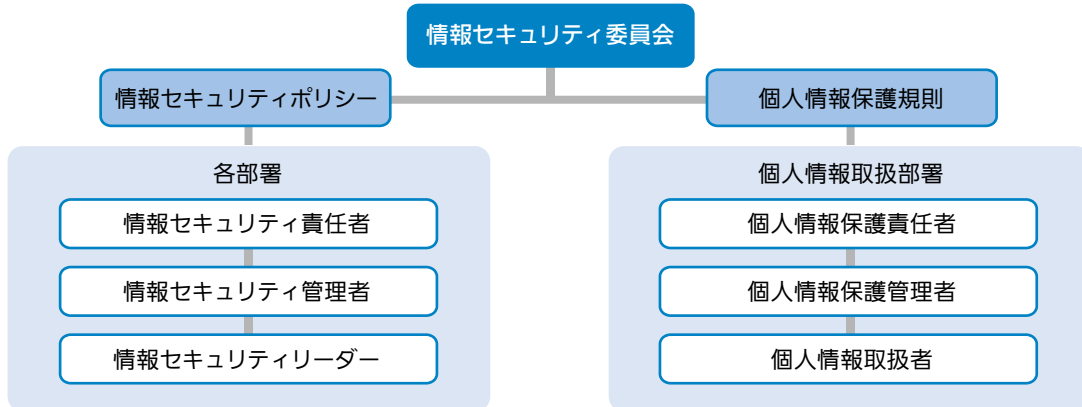
○コンプライアンス研修の実施

役員、管理職、コンプライアンス・リーダー、新入社員等を対象に弁護士等の外部講師や総務部法務担当等による階層別の研修を実施し、コンプライアンス意識の定着を図っています。

■情報セキュリティ

名古屋鉄道ではネットワークコンピュータ上に保管・保存されている情報及びコンピュータ、ネットワーク等の情報システムを会社の重要資産と位置付け、社内外からの情報資産に対する侵害、社内からの情報資産の流出及び不正使用を防止するための「情報セキュリティポリシー」を定めています。また、個人情報の重要性を認識した上で、その適切な利用及び管理を社会的責務と考え「個人情報保護規則」を定めています。

そして、これらの規則に基づき情報資産及び個人情報を保護・管理する情報セキュリティマネジメントを実施する組織として「情報セキュリティ委員会」を組織し、会社の利益及び対外的信用の維持に努めています。



	情報セキュリティ	個人情報保護
責任者	① 情報セキュリティに関する安全管理計画の策定・推進 ② 機密情報の必要性の判断	① 個人情報保護に関する安全管理計画の策定・推進 ② 個人情報の必要性の判断
管理者	① 機密情報の特定・把握及び必要性の判断 ② 情報セキュリティに関する安全管理計画の実施 ③ 情報セキュリティリーダーの指揮・監督	① 個人情報の特定・把握及び必要性の判断 ② 個人情報保護に関する安全管理計画の実施 ③ 個人情報取扱台帳の整備 ④ 個人情報の処理を委託する第三者の選定基準の設定 ⑤ 個人情報取扱者の指揮・監督
リーダー / 取扱者	情報セキュリティに関する指導	① 個人情報取扱台帳の運用 ② 個人情報記載文書等の施錠管理

■グループ共通基盤

設備面では、セキュリティ対策と冗長化を目的とした名鉄グループ共通のネットワーク基盤を構築しています。ここで名鉄グループ各社向けの各種シェアードサービスや、名鉄グループ各社が安全にインターネットを利用するための接続サービスを提供しており、情報セキュリティ上の脅威から名鉄グループの情報資産を守るため、グループ各社の加入を推進しています。

リスク管理体制とリスク管理の取り組み

名鉄グループは、事業の継続と安定的な利益の確保による発展を阻害するさまざまな要因を「リスク」ととらえ、それらを的確に管理していくことを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「名鉄グループリスク管理基本方針」を策定し、基本目的および行動指針を明確にしています。

名鉄グループリスク管理基本方針

基本目的

1 平常時の予防及び軽減措置

名鉄グループの事業を取り巻くさまざまな「リスク」の把握に努め、平常時から、可能な限り損失発生未然防止、軽減措置を講じます。

2 緊急事態発生時の適切かつ迅速な対応

緊急事態発生時には、組織の機能を維持し、損害の拡大を防ぐとともに、迅速な復旧を可能にします。

行動指針

1 私たちは、より高い公共性と社会的責任が求められている事業者として、安全の確保を最優先します。

2 私たちは、会社関係者（お客様、株主、地域社会、取引先など）の安全、健康及び利益を損なわないように活動します。

3 私たちは、従業員などの会社構成員の安全及び健康を損なわないように活動するとともに、経営資源の保全を図ります。

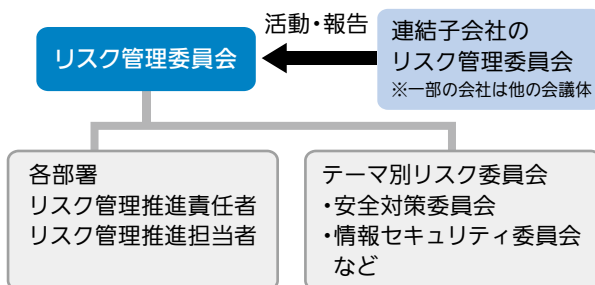
4 私たちは、災害・事故などで被害を受けた場合にも、事業または業務を中断させないように備えるとともに、万一、中断したときには、迅速に復旧させることにより、事業者としての社会的責任を果たします。

5 私たちは、リスクが顕在化した際には、責任ある行動をとるとともに、再発防止のために最善の努力をします。

リスク管理体制

■平常時のリスク管理体制

平常時のリスクの予防及び軽減措置のためグループ全体のリスク管理を統括する機関として「リスク管理委員会」を設置しています。また、特定のリスクについて具体的な対応策を検討する「テーマ別リスク委員会」を設置し、迅速かつ適切にリスクに対して対策を講ずる体制を構築しています。



■緊急事態発生時の危機管理体制

万が一、緊急事態が発生した場合にも、的確かつ迅速な対応を行うため、地震や風水害、テロ・火災、新型インフルエンザなどを対象に、リスクごとに危機管理体制を定めています。

リスク管理の取り組み

■リスクの洗い出しと把握

事業の継続と安定的な利益の確保による発展を阻害するリスクを的確に把握するため、名鉄グループ全体でリスクを洗い出し、リスクの発生頻度と影響度を分析したリスクマップを作成しています。

リスクマップはリスク管理委員会で集約・把握のうえ、リスクの中から優先的に対策に取り組むべき重要なリスクを選定し、対策の推進に取り組んでいます。

■BCPの策定

名古屋鉄道では、当社事業地域において大規模災害が発生した場合、社会的責任の完遂のため、鉄道輸送を最優先に、各事業の速やかな復旧と事業の継続を図ります。そのために、「事業継続基本方針」を定め、この基本方針に基づき「事業継続計画（BCP）」を策定しました。

また、「中期経営計画～PLAN120～」では、重点テーマとして「グループの核である交通事業の強化」を掲げています。グループ全体の危機管理体制強化のためにも、交通事業をはじめグループ各社のBCP策定に対し、積極的に取り組んでいます。

お客さまとのかわり



名古屋鉄道は、皆さまに安心してご利用いただける人にやさしい鉄道づくりをめざし、駅施設等ハード面の改良とともにソフト面でのバリアフリー化にも取り組んでいます。

CS向上活動の推進

多様化するお客さまのニーズに的確にお応えし得る接客サービスを提供するため、CS向上活動を積極的に展開しています。鉄道事業本部長を委員長とするCS推進委員会のもと、支配人室にCS推進担当者、各幹事駅・乗務区にCS推進専任者ならびCS推進リーダーを配置し、本社から現場の第一線まで一体となって活動しています。

本社および現場スタッフで構成される拡大CS推進委員会では、外部講師によるCS講演会を実施するほか、接遇に優れた係員や優秀な職場を表彰するなど、CSを多面的に捉えた催しを通して全社レベルの向上につなげています。



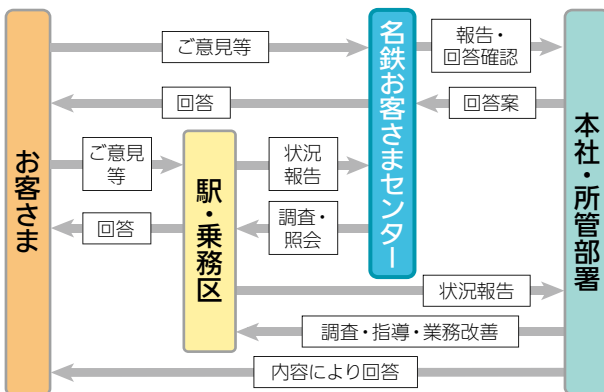
CS優秀者表彰

名鉄お客さまセンター

平成16年10月、お客さまへのサービス向上を図るため、「名鉄お客さまセンター」を開設しました。お客さまからの各種お問合わせに対し迅速かつ適切に対応することはもちろん、お寄せいただいたご意見・ご要望等から、問題点や課題を抽出し、サービス向上や業務改善に生かしています。

名鉄お客さまセンター TEL 052-582-5151
 営業時間 平日8:00~19:00
 土・日・祝日および年末年始8:00~18:00

■ご意見等の受付・回答の流れ



サービス介助士

お年寄りやお体の不自由なお客さまにも快適にご利用いただけるよう、「サービス介助士」の有資格者を主要89駅に532名配置しています。(平成25年4月1日現在) 専用の名札を着用し、資格を生かした細かい配慮により車いすの操作などのお手伝いを行っており、今後も順次増員を図っていきます。



バリアフリー対策

国土交通省より告示されている「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、整備対象駅の基準は1日平均利用者数が3,000人以上と定められており、当社の対象駅は平成24年度実績では133駅となります。

それに対し、従来より計画的にスロープやエレベーターを整備してきた結果、平成24年度末時点では整備対象駅に対して約92%の駅で実質的に段差解消を達成しております。



エレベーター



多目的トイレ



ワイド型(車いす対応)改札機

遺失物管理システム

電車内や駅でのお忘れ物を照会できる「遺失物管理システム」を、名鉄お客さまセンターや有人駅に導入しています。駅係員がお忘れ物をお預かりした日時や場所、特徴などをシステムに登録することにより、お忘れ物の状況をリアルタイムで検索・把握することが可能になり、容易にお客さまへのご案内ができるようになりました。

見やすい案内表示の実施

お客さまに駅をスムーズにご利用いただくため、駅の案内表示類は「ユニバーサルデザイン」の考え方に沿った、ピクトグラム表示、外国語表記での整備を積極的に進めています。

特に、名鉄名古屋駅、金山駅、中部国際空港駅などでは、5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語）の案内表示や駅名をアルファベット順に並べた運賃表を整備し、外国からのお客さまにもご利用いただきやすい駅の案内表示を行っています。

また、駅掲出用時刻表は「カラーユニバーサルデザイン」に配慮した数字のデザインや背景色を採用しています。

今後も、お客さまの視点に立ち、多くのお客さまに情報が伝わるように掲出方法に工夫をしながら、便利にご利用いただきやすい駅を実現してまいります。



ピクトグラム

アルファベット順に並べた運賃表

列車運行情報メール配信サービス

列車運行情報をお客さまに迅速にお伝えできるよう、平成20年5月から「運行情報メール」配信サービスを開始しました。これは、運行支障等により当社のホームページに「運行情報」が掲出されたことを、お客さまの携帯電話等にメールでお知らせするものです。これにより、お客さまが駅にお越しいただく前に電車の運行状況を把握できるような環境整備の充実を図っております。

「耳マーク※」の駅窓口への掲出

耳の不自由なお客さまに安心して鉄道をご利用いただくため、駅の窓口に、「耳」をデザインした「耳マーク」のステッカーを掲出し、筆談等による案内を積極的に実施しています。

※「耳マーク」は、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会が、耳の聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知していただき、コミュニケーションの配慮などの理解を求めていくために考案されたものです。



駅の禁煙化

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙の防止を図るため、全駅で駅構内の終日全面禁煙化を実施しています。

「AED」の設置

東岡崎駅、名鉄名古屋駅、金山駅、神宮前駅、中部国際空港駅、鳴海駅、犬山駅、太田川駅の計8駅にAED(自動体外式除細動器)を計14台設置しています。設置駅にはAEDの取扱いの研修を受けた駅係員を配置しています。



TOPICS

公式スマートフォンアプリ「名鉄Touch」のサービスを開始

お客さまへのサービス向上の一環として、平成24年9月より公式スマートフォンアプリ「名鉄Touch」のサービスを開始しました。本サービスでは、名鉄各駅の時刻表・駅設備等が確認できる『駅情報』、名古屋市営地下鉄等を含めた乗換えが検索できる『ダイヤ検索』、manaca加盟店で利用可能なクーポンを取得できる『クーポン配信』、manacaをかざしてカード残額・還元済マイレージポイント残高を照会できる『残額照会』、名鉄たまルンのポイントやキャンペーン情報等を確認できる『名鉄たまルン』などさまざまな機能がご利用できます。なかでも、『残額照会』は、おサイフケータイ®対応機種にmanacaをかざすことでカード残額を表示するサービスで、交通事業者では初となるサービスです。

※「おサイフケータイ®」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。





名鉄グループでは、事業を通じて永く社会に貢献していくため、さまざまな場面で地域の皆さまと連携し、地域発展のお役に立ちたいと考えています。

地域観光キャンペーンの展開

名古屋鉄道では、沿線の自治体と連携し、沿線にある豊富な観光資源を生かして、沿線観光地の魅力を引き出し、活性化する取り組みを様々に展開しています。

具体例としては、愛知県犬山市とタイアップをして、平成19年から沿線都市観光キャンペーンを実施しています。国宝・犬山城を中心とした城下町において各種イベントや歩行者天国を実施するなど、地域が受入体制を整備して観光客へのおもてなしを高める一方、当社では宣伝活動や企画きっぷを発売し、沿線地域への送客を図っています。

また、犬山市のほかにも、愛知県半田市・常滑市、西尾市、豊川市、岐阜県岐阜市、旧東海道沿いの自治体などともタイアップをしてキャンペーンを実施しています。

今後も、沿線各地との連携を図りながら、沿線価値の向上につながるキャンペーンを展開していきたいと考えています。



2013秋の犬山キャンペーンポスター



2013岐阜まち歩きキャンペーンポスター

「名鉄でんしゃまつり」の開催

ご家族向け鉄道イベント「名鉄でんしゃまつり」を平成25年5月に舞木検査場で開催し、約3,500名にご参加いただきました。会場では、運転台乗車体験や「電車と綱引き」など、名鉄電車に親しんでいただく多彩なイベントを実施しました。またエコムブトレイン内ではエコ教室を開催し、当社の環境への取り組みや、鉄道の環境優位性に関するPRを行いました。



36tクレーンによる作業実演



電車と綱引き

市民イベントへの参画

平成24年11月に岡崎市が総合交通政策の一環として開催した「公共交通に親しむ日」に参画し、次世代を担う子どもたちに公共交通に親しみ、その重要性を知ってもらうイベントとして、エコムブトレイン車内でのエコ教室や電車教室、また制服を着用しての運転台での記念撮影や車内放送体験などの電車体験を実施しました。

今後も地域主催のイベントに積極的に参画し、地域の住民やお客さまとのコミュニケーションの場を広げ、より多くの方々に鉄道に親しんでいただけるよう努めていきます。

鉄道のお仕事体験「たい・けん・がく!」の開催

平成21年8月から小学生を対象に、鉄道の仕事を実際に「体験・見学」して学ぶことができる特別イベント「たい・けん・がく!」を実施しています。参加者は、名鉄の制服に着替え記念撮影、普段は入ることができない駅の裏側を見学したり、車掌になりきって車内放送体験などを行い、鉄道の仕事を身近に感じていただいています。最近では、グループ会社とコラボして同様のイベントを実施するなど、さまざまな仕事の「体験・見学」を通じて、お客様の成長に役立てる取り組みを続けています。



ホームドア見学(中部国際空港駅)



ミュースカイの扉開閉体験(豊明検車区)

「ハロー・マイ・ステーション」の実施

平成25年4月より、10~20名程度の少人数のお客さまと駅長と一緒に駅周辺を散策する「ハロー・マイ・ステーション」を西部エリアで実施しています。

この企画では、駅長自らが散策場所を選び、地域の史跡、施設の新たな魅力をご案内しています。少人数ならではのアットホームな雰囲気の中で、駅と沿線地域の住民やお客さまとのコミュニケーションの新たな場となっています。



第1回 佐屋駅周辺での開催

「名鉄ロケーションサービス」を開始

映像や写真などの作品を通して当社及び当社沿線の魅力を紹介し、沿線の活性化や価値向上を図ることを目的として、平成24年9月より、「名鉄ロケーションサービス」を開始しました。

本サービスは、映画やTV番組、CM撮影などの映像制作にあたり、鉄道施設(駅や電車など)を撮影場所として有料で提供するので、撮影が円滑に行われるよう、関係施設との調整から下見と撮影当日の立会いまでサポートしています。



ロケの様子

企業ボランティア参加

平成25年3月10日に開催された「名古屋ウィメンズマラソン2013」の運営サポートを行う企業ボランティアとして、総勢13名で参加しました。

活動内容としては、コース(沿道)の整理やトイレへの誘導案内などランナーをサポートするもので、地元で開催されるビッグイベントを盛り上げようと、地域貢献活動の一環として、平成24年より参加しています。今後も地域貢献活動の一環として、また、地域の方々との交流の機会として、参加していきたいと考えております。



ボランティア参加者

「こども110番の駅」の取り組み

子どもを狙った犯罪の防止や安全な地域づくりなどを目的として、日本全国の鉄道事業者と共同で「こども110番の駅」の取り組みを行っています。名古屋鉄道では終日駅員配置駅で「こども110番の駅」ステッカーおよびポスターを掲出し、子どもが助けを求めた場合、駅係員は子どもを保護し、こどもに代わって110番通報を行うなどの対応をとります。



名鉄国際育英会

昭和58年に、それまでの名鉄育英会を統合して財団法人「名鉄国際育英会」を設立し、平成24年度は11人の愛知県で学ぶ外国人留学生に対して奨学資金を援助する国際的な育英事業を行いました。名鉄グループは、こうした教育機会の提供を通じて、青少年の育成に貢献しています。



奨学生参列風景

「名鉄沿線おでかけマガジンWind」の発行

沿線情報や営業情報を提供するため、「名鉄沿線おでかけマガジンWind」を発行しています。毎月1日、9万部発行し、名鉄沿線主要駅等にて無料で配布しているほか、ホームページでもご覧いただけます。



名鉄沿線おでかけマガジンWind

運転免許返納者割引サービスを実施

濃飛乗合自動車では、高齢者の交通事故防止対策と運転免許返納後の交通手段確保を目的として、65歳以上で運転免許を自主返納され「運転経歴証明書」を提示された方についてはバス運賃を半額に割引するサービスを実施しています。(但し、高速バス、共同運行路線、コミュニティバス等は除く)また、飛騨市に営業拠点があるタクシー部門では、同じく「運転経歴証明書」を提示された方についてはタクシー料金が1割引になる「シルバーいきいきタクシー」のサービスを実施中です。いずれも地元の警察署と合同で、地元関係者へPRを行っています。



お問合せ 濃飛乗合自動車株式会社 企画管理部 0577-32-0045

バスの乗り方教室の実施

■名鉄バス

名鉄バスでは、高齢社会における施策の一環として、平成24年より沿線地域の高齢者を対象に同教室を実施しています。

実際のバスを用いて乗車・降車のしかた、運賃表の読み方、manacaの使い方など乗車体験を通じて解説するとともに、ドライブレコーダーに記録された車内事故映像をご覧いただき、バス乗車時の安全確保について注意喚起を図っております。

今後もこの高齢者向けの「バスの乗り方教室」を沿線地域で順次実施し、より安心して乗合バスをご利用いただけるよう努めてまいります。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780



■濃飛乗合自動車

濃飛乗合自動車では、身近な乗り物でありながら意外と知られていない路線バスを安全・安心にご利用いただくことと、バスのファン作りを目的として、平成24年より小学校や保育園、老人クラブ等を対象に同教室を実施しています。

同社も実際のバスを使用しながらバスの乗り方や車内のマナー、緊急時の対応方等について説明することで、普段バスを利用する機会の少ないお子様も興味を持って参加しており、地元の方々から好評をいただいております。

お問合せ 濃飛乗合自動車株式会社 営業部 0577-33-7762



福祉施設とのコミュニケーション推進

名鉄レストランでは、地域の福祉施設との交流を毎年行っております。上郷サービスエリアでは昨年10月、豊田市福祉事業団「第二ひまわり」に慰問し、昼食会を開催。施設の皆様87名の方に食事を召し上がっていただきました。この取り組みが認められ、豊田市から市長表彰も受けております。このような昼食会は本年で10回目を迎え、また養老、多賀、恵那峡、国見の各サービスエリアでも同様の昼食会等を適宜開催しており、地域交流の推進に取り組んでおります。

お問合せ 株式会社名鉄レストラン 0586-85-5601



第二ひまわり

名鉄グループでは、地域の自治体、事業者、住民の方々などと共に、地域の魅力向上のため、様々な施策に取り組んでいます。

そのなかでも重要な拠点である名古屋駅地区においては将来の名駅再開発も見据え、中部の玄関口としてふさわしい街を実現するために、日々地域と連携した街づくり活動に積極的に取り組んでいます。

名古屋駅地区街づくり協議会の取り組み

名古屋駅地区において、街の魅力向上に取り組む「名古屋駅地区街づくり協議会」は、平成25年4月で設立6年目を迎え、当初正会員29法人で設立された協議会が、正会員49法人、賛助会員49法人(平成25年9月末現在)まで拡大しています。



協議会のエリアは、名古屋駅前を中心とした約120haを対象としており、街づくりの一端を担う事業者として、名古屋鉄道のほか名鉄百貨店、名鉄不動産、名鉄協商、名鉄レジャック、名鉄ビルディング管理、電通名鉄コミュニケーションズ、中央設備エンジニアリングの名鉄グループ7社が参画しています。

活動概要

中長期的な活動内容として、「名古屋駅地区街づくりガイドライン2011」に掲げた「街の将来像2025」の実現に向け、様々な展開案を検討しています。

具体的には、魅力的な道路空間を形成するための利用のアイデアを出し合うことを目的に「道路の利活用のアイデアを語ろう」と題したワークショップを平成25年6月に開催しました。また、有識者や経済団体に呼びかけ、「ターミナルシティ形成に向けての意見交換会」を立ち上げ、将来の名駅地区の街づくりについて意見交換を行っています。各地域のエリアマネジメント団体との



ワークショップ

ネットワーク構築を図るため、平成24年10～12月には、東京、大阪、名古屋の主要三大都市において、街づくり活動における方向性の共有と提言のとりまとめを目的に、『環境まちづくりフォーラム2012』に参画しました。



名古屋市への提言提出

また、リニア開通を見据えた将来の名駅地区における街づくりの、官民協働を主旨とした『名古屋駅地区の街づくりに関する提言』をとりまとめ、名古屋市へ提出し(平成25年5月)、今後はガイドライン2011の深度化を目指していきます。

日々の取り組みとしては、道路空間の利活用という点で、国により選定された「道路利活用における持続的で新しい官民連携の仕組みづくり社会実験」に基づき、平成23年度より道路上のフラッグバナー広告掲出やサポーター花壇の取り組みを実施しているほか、平成24年度からは新たに工事仮囲への広告掲出を行っています。これらにより、再開発ラッシュで殺風景になりがちな名駅周辺の街並みを彩る景観をつくるとともに、将来的な組織の自主財源として成立するためのスキームを模索しています。

そのほかにも、平成25年7月には「名古屋駅地区打ち水大作戦2013」を実施し街を盛り上げたほか、毎月1回の清掃活動・違法駐輪取締活動の実施し、街の美化に貢献しています。同年4月には「名古屋駅地区公共交通のりばマップ」を作成し、来街者への案内に活用しています。

地元大学・NPO法人との新たな取り組み

「ナナちゃん人形」は、名古屋駅前の待ち合わせの場所などに利用され、街の顔として長年親しまれています。そんなナナちゃんを中心とした賑わいが名駅地区全体の賑わい

へと発展することを目指して、ナナちゃんの活用方法について考える取り組みを地域と連携して実施しています。

「Thinkナナちゃん」の開催

平成24年7月、将来のナナちゃん人形の活用方を考える「Thinkナナちゃん」が、NPO法人「大ナゴヤ大学」と名古屋工業大学伊藤孝紀准教授・同研究室の企画運営のもと開催されました。当日は、大ナゴヤ大学の一般市民学生が参加し、ナナちゃん人形の活用策が話し合われました。

また、平成25年1月には2回目となる「Thinkナナちゃん」が開催され、当社や名鉄百貨店の社員、大ナゴヤ大学、名古屋工業大学のメンバーにより、本年4月に40周年を迎えたナナちゃん人形の将来について考えるワークショップを行いました。



第1回Thinkナナちゃん



第2回Thinkナナちゃん

株主・投資家の皆さまとのかかわり



名古屋鉄道では、株主・投資家の皆さまに企業経営に関する情報を適時適切に開示し、経営の透明性を確保し、信頼される企業をめざします。

適時適切な情報開示

株主・投資家の皆さまに対し、当社の財務状況や設備投資など、投資の判断に必要な経営情報を適時適切に開示し、会社の状況を正しく理解していただけるよう努めています。

株主の皆さまには、半期ごとに決算の概要等を記載した報告書を送付し、経営状況を報告しています。また、ホームページに「株主・投資家情報」のサイトを設け、重要な企業情報の適時適切な提供に努めています。

株主総会

第149回定時株主総会を平成25年6月26日に開催し、約900名の株主の皆さまにご出席いただきました。当日は、映像を交えながら、平成24年度の事業報告や連結計算書類の説明等を行いました。

インサイダー取引の防止

投資判断に重要な影響を及ぼす重要事実に関する情報の管理および特定有価証券等に係る売買等の規制について、基本的な事項を定めた「内部者取引管理規則」を制定するなど、インサイダー取引の未然防止に努めています。

従業員とのかかわり



従業員一人ひとりが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

人事制度

従業員一人ひとりが、やる気や働き甲斐を持って自らの役割を高いレベルで遂行できることを目的とした「役割等級制度」を導入しています。この制度は、組織において期待される役割を処遇決定の中心とするもので、コース・職種に応じて期待される役割を明確に定義し、従業員に明示しています。

また、期待される役割の遂行度合いを、複数の観点から客観的に評価し、その結果を従業員本人にフィードバックすることで、評価の透明性・納得性を高めるとともに、効果的な指導や従業員のさらなるスキルアップも図っています。

働きやすい環境づくり

■ハラスメント対策

ハラスメントは、個人の尊厳を傷つけ、能力の発揮を妨げるとともに、職場秩序や仕事の円滑な遂行が阻害される問題ととらえ、ハラスメント防止のための研修や相談窓口の設置を行い、ハラスメントのない職場環境づくりに努めています。

■コミュニケーション推進に向けた取り組み

経営者層や本社・現場スタッフとの間のコミュニケーションを図る場として、平成21年より「ふらっとミーティング」を随時開催しております。また、本社・現場スタッフ間の交流を図るため、駅やその周辺をボランティアで清掃する「ふらっとクリーニング」や、本社スタッフ部門の部署横断的なメンバーによる小集団活動「ふらっとコミュニケーション」を併せて実施するなど、会社内のコミュニケーションの推進を目的とした各種活動を行っています。

労働安全衛生

■労働安全衛生

社員一人ひとりに災害や事故がなく、健康で明るく働けることが、安全の確保とお客さまへのよりよいサービスの提供につながると考え、快適な職場環境づくりに努めています。毎年、安全および衛生のスローガンを掲げ、労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。

■メンタルヘルス

メンタルヘルス不全者を発生させないため、また早期に見できるようにするために、メンタルヘルスに対する正しい知識を身につけるための教育を実施しています。また、メンタルヘルス不全により会社を休んでいる従業員に対しては、産業医および保健師が定期的に保健面談を行い、復職に向けてのフォローアップを行っています。さらに、復職に際して勤務配慮が必要な場合は、産業医による勤務配慮措置により、できるだけ再発することがないように体制を整えています。

人材育成

名古屋鉄道は、従業員が担う役割に基づく教育体系を確立し、安全輸送を遂行するため徹底した安全教育と、お客さまサービス向上のための教育に力を入れています。

また、各種能力向上を図るため、それぞれの役割に応じた社内研修や外部ビジネススクールへの派遣などを行い、従業員一人ひとりが意欲的に能力を高め、大きな結果を出せる実践的な支援体制を整えています。

名古屋鉄道 コミュニケーションスローガン
ココロをつなぐ、あしたへはこぶ。

当社では、平成23年6月にコミュニケーションスローガンを策定しました。

明治27年の創業以来、当社はこの地域の公共交通を担う企業として、街と街、人と人をつなぐことで地域と共に歩んできました。そしてこれからは、今まで以上にお客さまの心に届くサービスを提供し、未来へ向かって着実に前進する企業を目指していきます。こうした当社の考えをお客さまに対して宣言し、お約束する言葉が、この「ココロをつなぐ、あしたへはこぶ。」です。

このスローガンを広くお客さまへお伝えするため、テレビコマーシャルの放映や駅でのポスター掲出を行っています。当社の歴史と未来への決意を表す「第1弾・歴史編」に続き、平成25年3月からは「第2弾・お客さま編」として「当社は、ご乗車になるお客さま一人ひとりのかけがえのない人生の瞬間を大切にし、公共交通としての使命を果たしていく」というメッセージを伝えています。

当社は、このスローガンの実現に向けた取り組みを着実に遂行していくことで、「地域から愛される『信頼のトップブランド』」を築き上げ、お客さまから選ばれる鉄道を目指してまいります。



子どもたちの冒険篇



夫婦の旅篇

編集方針

本報告書は、当社グループの環境および社会への取り組みについて紹介する冊子として作成しました。

本年も、より新しい情報を掲載するため、特集ページにおいて現在展開中の「名鉄エコプロジェクト2013」について紹介しています。

また、社会活動報告の中では、当社および当社グループを支えていただいているお客さまや地域社会、株主・投資家、従業員とのかかわりについて、ステークホルダーごとに内容を編集し、わかりやすく紹介しています。

本報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進していきたいと考えています。

対象組織範囲

名古屋鉄道(株)と名鉄グループ138社※を対象としています。

※平成25年8月31日時点

対象期間

平成24年4月1日から平成25年3月31日までとしました。ただしそれ以外の期間に取り組んだ内容も一部記載しています。

記載方法

環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

本報告書に関するお問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局
(名古屋鉄道株式会社事業企画部内)
〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
TEL 052-588-0805 FAX 052-588-0845
E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp



用紙

この印刷物には適切に森林管理されたFSC認証用紙を使用しています。



フォント

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



インキ

植物油インキの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。



印刷

インキ転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。



名古屋鉄道株式会社

環境・社会報告書は
ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.meitetsu.co.jp>



このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョンの基本理念を達成するための4つの要素「環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で支える「法令遵守」をレールで表したものです。